

## 第2回 夷隅地区地域協議会 次第

日 時 令和5年2月16日（木）

10時30分から

場 所 夷隅教育会館 会議室

### 1 開 会

### 2 報 告

- (1) 第1回夷隅地区地域協議会の概要
- (2) 「県立学校改革推進プラン」再編対象校に係る成果と課題について

### 3 議 事

- (1) 夷隅地区の県立高校の在り方について
  - ・普通科（教員基礎コース）
  - ・総合学科（普通、生活福祉、園芸、海洋科学系列）

- (2) その他

### 4 報告・連絡

### 5 閉 会

#### 【配付資料】

- 資料1 「県立学校改革推進プラン」再編対象校に係る成果と課題について  
県立学校改革推進プランに係る評価（平成27年度再編実施分）一部抜粋
- 資料2 大多喜町教育委員会提供資料

- 第1回夷隅地区地域協議会 記録（案）  
第2回出席者名簿  
第2回座席表

（以下、参考資料）

- 参考1 夷隅地区地域協議会 基礎資料（2ページ学校所在図）  
参考2-1 次期県立高校改革推進プラン（案）に関する意見募集結果について  
参考2-2 県立高校改革推進プラン・第1次実施プログラム（案）に関する意見  
募集結果について  
大多喜高校学校要覧・学校案内  
大原高校学校要覧・学校案内

1 第1次実施プログラムの概要（平成24年3月策定） 「県立学校改革推進プラン」再編対象校に係る成果と課題について

対象高校	実施年度	設置学科	備考	成果と課題（○成果、●課題）
千葉女子	26年度	普通科 家庭に関する学科	・普通科に教員基礎コースを設置	○大学職員による特別授業や小中学校等での体験実習はコース選択者に好評で、保護者の満足度も高い状況です。 ○学びを通して、自身のキャリアについて真剣に考えることができ、勤労観、職業観の育成に寄与していると考えられます。 ○コース選択者が中学校を訪問しコースの紹介を行うなど、効果的な広報活動を展開しています。 ●更なる充実のためには、小中学校や大学等の関係機関との連携をより深めることが重要です。
安房	26年度	普通科	・教員基礎コースを設置 ・英語科は、募集を停止（25年度）	【医歯薬コース】 ○進路目標が明確な生徒が多く、積極的に学習に取り組んでいます。 ○コースでの学びにより、医療従事者としての適性を確認することができるとともに、人のために働くことの素晴らしさや奉仕の心が涵養されました。 ●医歯薬コースについて、医学部に入学するための受験対策を行い、医学部を設置する大学を紹介するコースであると捉えている生徒や保護者が若干見受けられることから、医歯薬コースの役割について、より詳細な広報が必要です。 【県立中学校3年目評価】 ○中高一貫教育校の取組について、生徒、保護者の満足度が高く、教育的ニーズに応えています。 ○中学校3年間で生徒の変化として、日々の授業での「主体的・対話的で深い学び」や調べ学習により、コミュニケーション能力が伸長し、他者への思いやりの気持ちや自らを律する力が身に付きました。 ○中学校と高校の「リベラルアーツ講座」を受講したことで、教養を高めることができました。 ●中学校と高校との職員や施設の、円滑な連携に向けた取組の体系化が必要です。また、行事や部活動の更なる充実が検討課題です。
東葛飾	26年度 28年度	普通科	・医歯薬コースを設置 ・新たに県立中学校を併設	【県立中学校6年目評価】 ○中学校段階から探究の素養（資料作成能力、プレゼンテーション能力）やICT活用能力が醸成され、教養や本質を身に付けた深い学びを実現しました。 ○研究活動や研修等の取組を通じて、主体的なキャリア形成に繋げることができました。 ○中高の連携で豊かな人間性を育むとともに、ゆとりある中高接続で中高のコロナが授業等、特色ある学びを展開できました。 ●中学生の運動能力が県の平均に比べて低くなっています。 ●中高が連携した授業や学校行事の更なる充実が課題です。

千 葉 ※	20 年 度	普通科		<p>・新たに県立中学校を併設</p> <p>※ 千葉高校併設中学校設置に係る評価については、平成21年12月「県立高等学校再編計画」に係る前期分評価により実施したが、高校卒業時には評価を実施していなかったため、令和3年度に東葛飾高校併設中学校設置6年目評価に合わせて、再度評価を実施した。</p>	<p>【県立中学校3年目評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○開校理念に沿い、公立の中高一貫教育校として、受験準備に偏したいわゆる受験エリート校とは一線を画した独自の教育を実践している。</li> <li>○海外への指向をより強く持つ生徒が育つなど、開校理念が具現化されつつある。また、主体的な態度で学習に臨む生徒の割合が多いなど、千葉中学校での教育内容が千葉高校で成果として現れている。</li> <li>○異学年によって構成され、自ら課題を発見し探究する力を育てる学習などにより、主体的に学習に取り組む姿勢を育成し、個性や能力の伸長を図る教育を展開している。</li> <li>●異校種の交流が可能という併設型中高一貫校のメリットを生かすため、教育課程や学校行事上の更なる工夫、施設・設備の使用や整備の在り方等について検討が求められる。</li> <li>●今後も中学高校の円滑な接続に向け、生徒指導や授業方法の一層の工夫・改善に努める必要がある。</li> <li>●中高の人事交流や研修等、継続的な支援が必要である。</li> </ul> <p>【県立中学校6年目評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校段階から生徒の主体性を育むとともに、知識の定着や理解の深化を図る学習に取り組んでいます。</li> <li>○語学研修や異文化学習、講演会等、主体的なキャリア形成に繋げることができました。</li> <li>○学校行事を中心に、中高の連携の交流を図ることで豊かな人間性を育むとともに、中高の一体感を醸成しています。</li> <li>●中高連携授業の取組等、6年間の継続した学びの充実が課題です。</li> </ul>
長 狭	26 年 度	普通科		<p>・医療、福祉コースを設置</p>	<p>【医療コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○進路目標が明確な生徒が多く、積極的に学習に取り組んでいます。</li> <li>○医療現場には医師、看護師の他にも様々な職種があり、チームとして医療に取り組むことの大切さについての理解が進んでいます。</li> <li>●医療や福祉関係の進学や就職し選択できないという認識が生じています。</li> </ul> <p>【福祉コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○進路目標が明確な生徒が多く、積極的に学習に取り組んでいます。</li> <li>○学習内容に対する満足度も高く、生徒のニーズに応えています。</li> <li>○資格を活かした就職や、より高い資格の取得を目指した進学など、社会の要請等に応えた人材を育成し、職業的自立に向けた能力や態度を育んでいます。</li> <li>●福祉の仕事については重労働等のイメージがありますが、やりがいのある仕事であること、生徒に更に伝える必要があります。</li> </ul>
柏 井	25 年 度	普通科		<p>・国際コミュニケーションコースを設置</p> <p>・英語科は、募集を停止（25年度）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コースの選択を前提に入學している生徒もいるため、全体として学習への取組はよく、学習内容に対する満足度も高いなど生徒のニーズに応えたコースとなっていると言えます。</li> <li>○卒業後、学習内容に関連した大学・専門学校・企業等へ進む生徒もおり、興味・関心を育みつつ、社会人としての技能や職業観の育成に着目していると考えられます。</li> <li>●コースの学習内容や進路の状況などが十分理解されていないという中学校からの指摘があり、今まで以上に丁寧に広報に努めていく必要があります。</li> </ul>

佐倉	26年度	普通科 理数に関する学科	・理数に関する学科を設置	<p>○課題研究を通して、生徒は課題解決能力やプレゼンテーション能力を身に付けています。</p> <p>○大学や企業との連携により、先進の学びや技術について触れる機会を得ています。</p> <p>●理数科の活動内容の広報について、特に、学びの利点や特色をさらに明確にする必要があります。</p> <p>○農業大学校と県内農業関係高校が連携し、農業生産工程管理（GAP）教育の推進に取り組んでいます。</p> <p>○千葉県園芸協会との連携により、農業法人へ就職する生徒が増加しています。</p> <p>●拠点校と他の農業科設置校とのネットワークが構築されていますが、先進農家研修等による将来の農業スペシャリストの育成、新たな農業教育の手法に関する研究・開発等については、一部の学校にとどまっています。</p> <p>【工業教育の拠点校】</p> <p>○工業科設置校全体で資格取得に向けて足並みを揃えて取り組むなど、工業高校全体のレベルアップを目指す雰囲気が醸成されています。</p> <p>○拠点校がスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）に指定され、拠点校の生徒・職員の研究活動に対する意欲が向上しています。</p> <p>●拠点校として取り組む具体的な内容について、外部に対してわかりやすく示す必要があります。</p> <p>●工業教育の底上げを行うために必要となる先進的な取組事例に関する情報を、他県からも積極的に収集し、県内の工業科設置校と共有することが必要です。</p> <p>【コンソーシアム】</p> <p>○コンソーシアムを通じて大学、企業等との連携が深まり、活発に工業高校について意見交換が行われ、工業高校の取組に対する理解が進んでいます。</p> <p>●コンソーシアムの取組内容が、参加者以外に認知されていない現状があり、中学生やその保護者、県内企業等に対する積極的な広報が必要です。</p> <p>【理数工学科】</p> <p>○1、2学年で電気や機械、工業化学などの工業分野を広く学ぶことによって、工業に関する研究目標を持ち、3学年の課題研究では、生徒個々が目指す進学先に向けた積極的な取組が見られました。その結果、卒業生36人のうち72.7%（26人）が大学・短大へ進学しました。</p> <p>○学校設定科目「産業工学研究」では、土曜授業を通して、大学や専門学校の講師による専門的な講義を受講したことで、生徒一人一人が、進学に向けて必要な研究課題を発見することができました。</p> <p>○進学を重視し、国公立大学受験や一般入試に向けたカリキュラムを編成し、一般入試の他、推薦入試やAO入試に対応しました。</p> <p>●タブレット端末などのICTを活用した教育に十分対応できるよう職員の更なる指導力向上が必要です。また、学校設定科目「産業工学研究」では、通常では経験できない貴重な講義内容であることを十分に理解させ、周知することが必要です。</p>
茂原樟陽	27年度	農業に関する学科 工業に関する学科	・農業教育の拠点校	
千葉工業	25年度 28年度	工業に関する学科	・工業教育の拠点校 ・コンソーシアムを設置 ・理数工学科を設置	

松戸向陽	25年度	普通科 福祉に関する学科	<p>福祉教育の拠点校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉教育の拠点校</li> <li>普通科に福祉コースを設置</li> </ul>	<p><b>【福祉教育の拠点校】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>千葉県高等学校教育研究会福祉教育部会（以下「福祉教育部会」という）を活用して、各種情報提供や、福祉教育のレベルアップに向けた教員相互の研究授業による研修等、拠点校としての取組が進んでいます。</li> <li>小学校や中学校などへの福祉教育に関する啓発活動や、地域との連携強化の在り方等について検討していく必要があります。</li> </ul> <p><b>【福祉コース】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉に関する興味・関心の高い生徒や介護を身近なものとする生徒が多く、資格取得への意欲も高くなっています。平成27年度はコース選択者全員が介護職員初任者研修修了者の資格を取得しました。学習内容に対する満足度も非常に高く生徒のニーズに応えていると言えます。</li> <li>資格を活かした就職や、より高い資格の取得を目指した進学など、社会の要請等に応えた人材を育成し、職業的自立に向けた能力や態度を育んでいると言えます。</li> <li>中学校がきめ細かい情報提供を望んでおり、今まで以上に確実に広報に努めていく必要があります。</li> </ul>
小見川	27年度	普通科	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉コースを設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容に対する生徒の満足度が高く、ニーズに応えています。</li> <li>資格を活用した就職や、より高い資格の取得を目指した進学など、社会の要請に応えた人材を育成し、職業的自立に向けた能力や態度を育んでいます。</li> <li>福祉コース選択に当たり、社会福祉の理念と意義を理解させる必要があります。</li> </ul>
成東	28年度	普通科 理数に関する学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位制を導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な選択科目に対する生徒の満足度が高く、生徒の教育的ニーズに応えています。特に新たな選択科目である「つくもタイム」では、約7割と生徒の高い満足度を得ています。</li> <li>「つくもタイム」においてキャリア教育を充実させるなど、生徒一人一人の進路希望に応じた科目選択が可能となっています。</li> <li>3年次での選択科目は多様であるが、1・2年次では選択科目が少ないので、教育課程を工夫・改善する必要があります。</li> </ul>
館山総合	27年度	工業に関する学科 商業に関する学科 水産に関する学科 家庭に関する学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光の学びを導入</li> <li>海洋科の栽培コースを栽培環境コースに転換</li> </ul>	<p><b>【観光の学び】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は、地域の方々とつながりや安房地域の観光資源の豊富さを意識するようになりまし</li> <li>観光業界に興味をもつ生徒が増えました。</li> <li>生徒、保護者共に、入学前の学びへの認知度が低い状況があります。</li> <li>学科によって、学びに取り組みやすい学科とそうでない学科があり、中には学びが定着していない生徒がいます。</li> </ul> <p><b>【栽培環境・海洋環境コース】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コースの学びを通して、県内の企業を就職先として考える生徒が増えています。</li> <li>充実した学習を通して、生徒はコースの学習内容に興味をもち、積極的に取り組むようになりまし</li> <li>広報が学科の説明までで、コースの内容までの周知が不足しています。</li> </ul>
銚子商業	27年度	商業に関する学科 水産に関する学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋科の海洋科学コースを海洋環境コースに転換</li> </ul>	

<p>銚子</p>	<p>26年度</p>	<p>普通科</p>	<p>・防災の学びを導入</p>	<p>○災害発生時のメカニズムやその際の対処方法に関する知識を習得しました。 ○生徒は学びの重要性や必要性について十分に認識していることから、取組状況も良好であり、学びに対する満足度も高くなっています。 ○防災宿泊研修を通して災害時の避難所運営に興味を持つ生徒が多く見られ、生徒に地域や社会との関わりを持たせることで、生徒の社会参画に寄与しています。 ●防災教育を行っている学校として、地域の認識を得るためのより一層の広報が必要です。</p>
<p>天 泉 羽</p>	<p>24年度</p>	<p>普通科</p>	<p>・地域連携アクティビブスクールの設置</p>	<p>【学び直し（学ぶ意欲に応える学習指導）】 ○生徒・保護者対象のアンケート調査では、学び直しに対する期待は大きく、地域連携アクティビブスクールの志願した理由として「学び直しがある」という回答が最も多く、また学校生活においても「学び直しの授業」に対する満足度は、生徒・保護者ともに非常に高くなっています。 ○中学校対象のアンケート調査においても、良いと思う特色として「学び直しができる学校」とする回答が最多となりました。 ●3年間を見通した実施方法や教材について研究する必要があります。 【実践的なキャリア教育】 ○生徒・保護者対象のアンケート調査では、充実した進路指導に対して肯定的でした。 ●一方で、志願理由や満足度の数値については、必ずしも十分な結果とはなっていません。 ○中学校対象のアンケート調査では、「地域と連携し、キャリア教育を行っていることで、生徒の心が育っているように思った」、「地域連携のインターンシップの一層の充実拡大に期待する」などの意見をいただきました。 ●今後は、現在実施しているキャリア教育の更なる充実を図るとともに、より効果的なキャリア教育の在り方や実施状況の広報などについて検討する必要があります。 【地域との連携】 ○生徒・保護者対象のアンケート調査では、「地域の方々と触れ合う機会があり、とても良かった」、「地域の方と交流する機会が増え、コミュニケーション能力を高めることができただ」、「これまで以上に地域の方々と触れ合う機会を設けていただきたい」などの意見がありました。 ○中学校対象のアンケート調査では、「地域の学校として多方面と連携して様々な取組をしているので、魅力的だと思う」などの意見をいただきました。 ●今後、現在の地域連携の取組について内容の吟味を図り、「地域の教育力の活用」と「地域への貢献」を踏まえた教育活動の在り方について引き続き検討する必要があります。 【独自の入学選抜】 ○中学校対象のアンケート調査では、入学選抜について「現状のままより」とする回答が8割を超える結果となりました。 ●当面は、現状の入学選抜を維持しつつ、生徒の状況等を見守りながら、地域連携アクティビブスクール設置の趣旨を的確に踏まえた入学選抜の在り方について、引き続き検討する必要があります。 【支援体制】 (1) キャリア教育支援コーディネーター</p>

大原	27年度	総合学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普通科及び職業系専門学科を改編し総合学科を設置</li> <li>・ 大原高校の健康スポーツ科は、募集を停止 (25年度)</li> </ul>	<p>○キャリア教育支援コーディネーターの配置により、インターンシップ拡充のための企業開拓やインターンシップ実施の事前・事後指導、地域との連携による教育活動の展開などが進められ、実践的なキャリア教育の展開が可能となっています。</p> <p>●地域の教育力を活用した実践的なキャリア教育を推進するためには、コーディネーターの継続的な配置と運用のための予算確保が必要となります。</p> <p>(2) スクールソーシャルワーカー</p> <p>○スクールソーシャルワーカーの配置により、子どもと親のサポートセンターや市役所、児童相談所、発達障害者支援センター等の関係機関との連携が深まり、生徒の抱える課題に対して、より適切な対応が可能となっています。</p> <p>●困難を抱える生徒に対して、スクールソーシャルワーカーの配置が効果的であることは既に実証済みであり、継続的な配置と運用のための予算確保が必要となります。</p> <p>(3) 学習サポートボランティア</p> <p>○学習サポートボランティアからの意見聴取では、貴重な経験となっておりと肯定的です。</p> <p>●一方で、授業での補助に当たって授業担当者との緊密な連携体制の構築が必要であるなど、改善を求めたい意見もありました。</p> <p>●生徒へのきめ細かい指導を可能にするともに、ボランティアとして参加している学生にとっても学校現場を知る貴重な経験となることから、継続して実施していく必要がありですが、ボランティアからの意見聴取を踏まえ、実施方法の改善が課題となっています。</p> <p>○総合学科における幅広い科目設定により、学習指導、生徒指導、進路指導等において、生徒個々のニーズに応じた対応が実践できています。</p> <p>○統合により、部活動数や部員が増加し活発な活動が行われるようになりました。</p> <p>●周知・広報活動を行う際、現在の教育活動における総合学科の特徴を整理し、わかりやすい言葉で説明する工夫が必要です。大学進学から就職まで生徒の多様なニーズに応じた学校であることを中学生や保護者に理解してもらおうことが重要です。</p>
----	------	------	---	---

2 第2次実施プログラムの概要（平成26年3月策定）

対象高校	実施年度	設置学科	備考	成果と課題（○成果、●課題）
成田国際	27年度	普通科 国際関係に関する 学科	・グローバルスクールを設置	○SGH指定校となり、グローバル人材育成のための研究開発をしています。 ○グローバルスクールの取組について、生徒、保護者の満足度も高く、ニーズに応じています。 ●SGH課題研究などのノウハウをSGHの指定が終わった後、どのように継承していくかが課題です。
木更津	29年度	普通科 理数に関する学科	・理数に関する学科を設置	○令和元年度、全国高等学校総合文化祭自然科学部門地学部部門で奨励賞を受賞するなど、各種コンテストで高い評価を得ました。 ○理科・数学への学習意欲が高い生徒が多く、自ら積極的に学習を進め、学力を伸ばし、理系の難関大学への進学を目指す生徒もいます。 ●学科内には、学習習慣が確立していない生徒がおり、学力面で差があります。上位層を更に伸ばす指導とともに、全体的なレベルアップに向けて組織的な取組が必要です。
佐倉西	29年度	普通科	・福祉に関するコースを設置	○近隣の福祉施設との連携により、充実した実習や体験ができ、福祉教育に対して全ての生徒、保護者が肯定的に評価しています。 ○コース選択者全員が介護職員初任者研修の資格を取得しています。 ●将来を長い期間でとらえた場合、介護職を選ぶ可能性はありますが、卒業後すぐに介護職を選ぶ生徒が少くない状況にあります。なお、進路に対して、コース選択者の95%が「進路の幅が広がった」「目指す進路が決まった」など、肯定的な評価をしています。
小金	28年度	総合学科	・普通科を改編し総合学科を設置	○質の高い少人数制授業や高大連携、キャリア教育を推進することで、生徒の多様な進路ニーズに的確に応えています。 ○将来の進路を見据えた様々な学びの提供により、目指すべき進路が明確になり、一般受験で難関校を目指すようになりました。 ●進学を重視した総合学科として、「課題研究」、「産業社会と人間」のカリキュラムを確立し、進路指導に適切に結び付ける必要があります。
鶴舞桜が丘	26年度	農業に関する学科 商業に関する学科	・食とみどり科に緑地管理コースを設置	○高校卒業後の進路目標が明確で、積極的に学習に取り組む生徒が多いです。学習内容に対する満足度も高く、生徒のニーズに応じています。 ○ゴルフ場等の地域観光産業に就職する生徒がおり、緑地管理についての興味や関心を育みつつ、社会人としての技能や職業観の育成に寄与しています。 ●今まで以上にゴルフ場等の地域観光産業への就職を増やす必要があります。
船橋古和釜 流山北	27年度	普通科	・地域連携アクティブスクールを設置	○学び直しの授業に対する生徒の満足度が高く、ニーズに応じています。 ○就業体験・インターンシップなどの体験学習に対する満足度も高く、充実したキャリア教育が実施され、自立した社会人の育成につながっています。 ●「中学校で能力を発揮できなくても、高校では頑張ろうとする意欲を受け止める学校」を理念としています。このことを確実に周知する必要があります。

3 第3次実施プログラムの概要（平成28年3月策定）

対象高校	実施年度	設置学科	備考	成果と課題（○成果、●課題）
我孫子	30年度	普通科	・教員基礎コースを設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が主体的に議論したり発表したりする機会が増え、授業や部活動、学校行事等に積極的に参加するようになりました。</li> <li>○学習ボランティア等では、近隣小・中学校から喜んでいただいています。</li> <li>●他の教育活動や部活動に影響が出るため、学校全体での協力体制が必要です。</li> <li>●1年間を1クールとして計画しているため、3年間を見据えての計画を立てることが難しく、授業内容が重複してしまっています。</li> <li>○高校生活を前向きに過ごしている生徒が多く、特にグループワークの授業では、教員基礎コースでの学びを生かし、積極的にグループメンバーに関わろうとする場面が見られます。</li> <li>○活動への意欲が高く、コースを選択している生徒の多くが部活動において部長を任されるなど、様々な場面で学校の中心となって活躍しています。</li> <li>○小・中学校での体験活動やボランティア活動等について、高い評価をいただいております。今後の連携も期待されています。</li> <li>●学校全体でコース選択者をバックアップする体制を更に整える必要があります。</li> <li>●生徒・保護者共に授業内容等に関する満足度は高くなってはいますが、進路実現につながる指導を目指す必要があります。</li> </ul>
君津	30年度	普通科	・教員基礎コースを設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コース選択者の生徒全員が、市川南高校にコースがあるから選択したと回答しており、高い目的意識を持った生徒が入学しています。</li> <li>○授業内容、生活指導、先生方とのコミュニケーション等、生徒の満足度が非常に高いです。</li> <li>○市のボランティアへの参加や、近隣の幼稚園、保育園などの実習を通して地域との交流を深めることができ、授業等について協力体制を得られました。</li> <li>●コロナ禍における実習の実施や、専門教員の配置、全教員のコースへの理解が課題です。</li> <li>●コースを希望する生徒が設備等の関係からコースに全て受け入れられない場合があり、定員の拡充が課題です。</li> </ul>
市川南	31年度	普通科	・保育基礎コースを設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>○異文化理解力やコミュニケーション能力が著しく向上したことで、国際交流を行う素地ができました。</li> <li>○SGHで実施したプレゼンテーションなど、生徒の活躍について高い評価を得ています。</li> <li>●SGHの指定が終わった後、異文化理解やコミュニケーション能力の育成のための手段や方法を、どのようにして継承していくのが課題です。また、グローバル化に関する学びの取組について、2年生以降になるとグローバルエイジング選択者などの一部の生徒しか取り組めないことから、学校全体で実施する取組を充実させることが必要です。</li> </ul>
松尾	28年度	普通科	・グローバル化に関する学びを導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○近隣諸国である中国・韓国の文化や歴史を学ぶことにより、国際的な視野を広げることができ、卒業後の進路にも影響を与えています。</li> <li>○「話す力」の向上を重点に指導してきたので、当初の目標は、十分に達成できました。</li> <li>●大学に進学する生徒が72.8%を占める進学校であるため、大学受験科目以外の授業に対して、興味関心が低い傾向があります。</li> <li>●選択者数が伸び悩んでいる理由の1つとして、日中関係や日韓関係など、外交関係の変化が生徒のコース選択に大きな影響を与えていることが考えられます。</li> </ul>
匝瑳	29年度	普通科 理数科	・普通科に国際に関するコースを設置 ・英語科は、募集を停止	

<p>農業に関する設置校 山陵総古業網 成田西陵総古業網 下多旭大 茂原樟陽 鶴舞桜が丘</p>	<p>30年度</p>	<p>・農業に関する学科を、次の6学科に再構成 園芸科：基礎から幅広く農業を学ぶ学科 農業科：園芸科の学びに加え動物の飼育等も学ぶ学科 食品科学科：食品の加工・製造・流通等を学ぶ学科 土木造園科：農業土木と造園の知識と技術を学ぶ学科 畜産科：家畜の飼育の知識と技術を学ぶ学科 生物工学科：動植物のバイオテクノロジー等を学ぶ学科</p>	<p>○学科名から教育内容がわかるようになり、学習内容を理解した上で入学する生徒が多くなっています。 ○拠点校（茂原樟陽高校）を中心としたGAPに重点を置いた、加工や販売までを視野に入れた教育を展開するようになりました。 ○家庭科（食品・保育）など、他教科と連携した横断的な教育が行われています。また、普通科を併置している学校では、農業選択科目を設置するなど、他学科との連携が行われるようになりました。 ○先進農家や農協、農業事務所などと連携した活動を進めています。 ●今後も都市部や郡部などの地域性を踏まえた更なる学科再構成の検討が必要です。 ●アグリサポーターズちばの運営など、拠点校が中心となって行っている活動を他校にも積極的に拡充することで、学びの内容を更に充実させていく必要があります。</p>
<p>自動車科 園芸科 情報処理科</p>	<p>30年度</p>	<p>・航空車両整備科を自動車科に再構成 ・生産技術科を園芸科に再構成 （農業に関する学科の学科再構成を参照） ・情報ビジネス科を情報処理科に再構成 （商業に関する学科の学科再構成を参照）</p>	<p>○学科名変更前の航空車両整備科では、航空機関係の学びをイメージして入学する生徒がいましが、再編後、学科名と学習内容が一致していることから、自動車への興味・関心の高い生徒が入学しており、これまで以上に意欲的に授業に取り組んでいます。 ○2か年にわたって「原動機」を履修することで、実際に使用されている自動車等の機材を教材とした実験・実習を行い、理論と関連させた学習により理論が目に見える形となり、工業の各分野の知識・技術の確実な習得が図られ、これまで以上に自動車への理解を深化できるようになりました。 ○地域産業や産業振興施策との整合性を踏まえ、工業高校の配置やわかりやすい学科名への変更を含めた学科再構成等を実施し、工業教育の充実を図ります。 ●整備士以外の取得可能な資格や進路先など、多様なキャリアにも対応できることを更に広く周知していく必要があります。 ●下総高校は、運輸省（現：国土交通省）に指定された「自動車整備士第一種養成施設」であるため、教育課程の編成や授業展開に制約がある中で、自動車を教材の核として、工業全般を幅広く学習できる授業展開の工夫が必要です。</p>
<p>商業に関する設置校 山陵総古業網 成田西陵総古業網 下多旭大 茂原樟陽 鶴舞桜が丘</p>	<p>30年度</p>	<p>・商業に関する学科を、次の2学科に再構成 商業科：マーケティング・ビジネス経済・会計等を幅広く学ぶ学科 情報処理科：ビジネス情報を中心に学ぶ学科</p>	<p>○学科名の統一により学びがわかりやすくなりました。 ○出前授業や体験授業などを実施することで、中学生に体験的に商業科及び情報処理科の学びを理解してもらえました。 ●地域や学校の状況を踏まえてスペシャリスト育成に対応した教科指導及び進路指導の充実がより一層期待されます。</p>

我孫子東	31年度	普通科	福祉コースを設置	<p>○生徒の意識は「私達がやってあげたい」「困っている人を助げたい」でしたが、学ぶ中で「福祉を必要としている人とコミュニケーションをとる中で、楽しい時間を共有する」という意識が変わり、学び方が変わりました。</p> <p>○福祉コースで学びたいと希望する中学生や、近隣の福祉施設からボランティアに来て欲しいという問い合わせも増えており、我孫子東高校の福祉コースが地域にも浸透してきています。</p> <p>●外部講師との連絡調整が不十分であったため、計画していた授業内容にズレが生じてしまうことがあります。</p>
幕張総合	31年度	普通科 総合学科 看護科	・普通科を改編し総合学科を設置	<p>○系列ごとに設置された選択科目の中から、多様な選択ができ、一人ひとりの進路や適性に合った時間割を作成することにより、進路の目標に向かって、自ら進んで学習できるようになりました。</p> <p>○1年次生を対象に海浜幕張駅周辺に立地する17の企業等から講師を招き実施したキャリアセミナーにおいて、実行委員の生徒は、外部講師に対する接遇等を通じて、社会人として必要な積極的な態度、ビジネスマナー等を身に付けようとしていました。また、生徒の主体性を引き出すため、生徒が教員とともに企画・運営に積極的に携わっていました。</p> <p>●高大連携や外部講師による特色ある講座の実施等、生徒の進路希望に応じたきめ細かな取組をより一層行う必要があります。</p> <p>●生徒の多様な進路希望に対応するため、生徒の興味・関心に応じた時間割の作成を支援するとともに、大学卒業後の就業までを見通した職業意識の高い人材を育成するため、個別かつ具体的なキャリア教育を推進する必要があります。</p>
安房	30年度	普通科	・単位制を導入	<p>○生徒が自己の進路実現を見据え、主体的に科目選択をすることにより、以前よりも個のニーズに応じた学びが展開されるようになっていきます。特に3年時では大学入試に必要な科目を手厚く履修できるようになっているため、学習意欲が向上しています。</p> <p>●一部の生徒に安易な科目選択や「減単位」履修（自習の時間を設定すること）が見られます。また、苦手科目を克服しようとせず、苦手科目の履修を回避する生徒も見られます。</p> <p>○生徒は自らの身だけでなく、他人の身も守る方法を身に付けられています。</p> <p>○学校独自の教材と教育体制を整備しています。</p> <p>○日常生活における生徒の防災意識を高めることができたと同時に、教員の防災教育への意識を高めることができました。</p> <p>●理科や地理、家庭科、保健体育などといった教科との連携が上手くいけば、より充実した教育ができるかと考えられますが、現状は連携ができていません。</p> <p>●コロナ禍の影響により、2年間の計画どおりに進めることができた学年がまだありません。また、中学校や外部団体との連携も不十分でした。</p>
市原八幡	31年度	普通科	・防災の学びを導入	

4 第4次実施プログラムの概要（平成30年3月策定）

対象高校	実施年度	設置学科	備考	成果と課題（○成果、●課題）
千葉大宮			<ul style="list-style-type: none"> <li>千葉大宮高校で学ぶ生徒の学習環境をより一層向上させるため、館山総合高校において、平成29年度から新たにスクーリングを実施している。</li> </ul>	<p>○生徒の通学に対する「負担軽減」に加え、少人数による個に応じたきめ細かな指導が行われていることから、生徒、保護者の満足度が高い結果となっています。</p> <p>○映像教材を活用した面接指導やNHK高校通信講座の視聴など、デジタル教材を活用し、レポート学習では扱えない学習内容を補充することにより、生徒の学習内容に対する理解が深まっています。</p> <p>●今後の通信教育に対するニーズを踏まえ、ICTを中心とした学習環境について、更なる研究が必要です。</p>
成田北	R2年度	普通科	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療コースを設置</li> </ul>	R4 評価中
四街道北	R2年度	普通科	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育基礎コースを設置</li> </ul>	R4 評価中
姉崎	R2年度	普通科	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくりコースを設置</li> </ul>	R4 評価中
天羽	R2年度	普通科	<ul style="list-style-type: none"> <li>工業基礎コースを設置</li> </ul>	R4 評価中
犢橋	R2年度	普通科	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉コースを設置</li> </ul>	R4 評価中
船橋 (定時制)	R4年度	総合学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>普通科を改編し総合学科を設置</li> </ul>	R6 (R7) 評価予定
千葉工業 (定時制)	R2年度	工業科	<ul style="list-style-type: none"> <li>機械科、電気科を工業科に再構成</li> </ul>	R5 評価予定
市川工業 (定時制)	R2年度	工業科	<ul style="list-style-type: none"> <li>機械電気科、建築科を工業科に再構成</li> </ul>	R5 評価予定
木更津東 (定時制)	R2年度	普通科	<ul style="list-style-type: none"> <li>商業に関するコースを設置</li> <li>商業科は募集を停止</li> </ul>	R5 評価予定
佐倉南	R4年度	普通科	<ul style="list-style-type: none"> <li>三部制定時制高校の設置</li> <li>佐倉南高校全日制課程は募集を停止</li> </ul>	R6 (R7) 評価予定

## 第 2 回 夷隅地区 地域協議会資料

令和 5 年 2 月 1 6 日  
大多喜町教育委員会

1

### 進路状況及び進路指導等の取組につ いて

#### (1) 学校の概要

- ・「至誠純真」「進取向上」「自主協同」を教育目標に掲げ、誠実さ、向上 心を兼ね備え、とりまく人々と協力する心を持つ人材を育成する。
- ・文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」のアソシエート校（地域魅力型・令和 2 年～ 4 年の 3 年間）の指定を受け、これからの社会を力強く生き抜く人材に必要な「課題発見能力」「課題解決能力」「自己表現能力」を身につけるとともに自分たちの地域のことをよく知ったうえで課題や良さを見つけて発信したり、課題解決策を創出するなど、主体的に行動できる人材の育成を目指す。

2

(2) 卒業生の進路状況 (全日制普通科)

ア 令和3年3月卒業生 136人 (進路決定者: 130人 (95.6%)、未定者: 6人 (4.4%))

① 進学 120人(88.2%) ・ ・ 一般受験 21人、指定校推薦 49人、公募推薦16人、  
総合型選抜※1 34人

②就 職 10人(7.4%) ・ ・

③その他 6人(4.4%) ・ ・ 浪人 4人

※1 総合型選抜: 面接・小論文、志望動機や学部・学科に対する適性、入学後の意欲などで総合的な人物評価を行って選抜する方法。  
AO入試から名称変更(R2~)。

イ 進路の特徴

- ・ 一般選抜は前年より増えたが、ほとんどは推薦による進学。99/120人 (82.5%)
- ・ 国公立大学への進学が、ここ数年の中では多かった。5/80人(6.3%)
- ・ 8割以上が進学希望だが、R3年3月卒業生は専門学校進学が例年より少なかった。
- ・ 就職希望者の多くは公務員を目指している。民間企業は不採用となるケースはほぼなく、生徒の希望企業に就職している。

年度	卒業生数 ( )は 入学時の数※2	進路決定者	進学					就職	その他未定 (浪人等)
			計	4年制大学	短期大学	専門学校			
R2	136人(137人)	130人(95.6%)	120人(88.2%)	80人(58.8%)	5人(3.7%)	35人 (25.7%)	10人(7.4%)	6人(4.4%)	
R元	159人(164人)	149人(93.7%)	133人(83.6%)	81人(50.9%)	5人(3.1%)	47人 (29.6%)	16 (10.1%)人	10人(6.3%)	
H30	150人(152人)	143人(95.3%)	132人(88.0%)	83人(55.3%)	9人(6.0%)	40人 (26.7%)	11人(7.3%)	7人(4.7%)	
H29	159人(162人)	145人(91.2%)	131人(82.4%)	74人(46.5%)	14人 (8.8%)	43人 (27.1%)	14 (8.8%)人	14人(8.8%)	

※2 入学時と卒業時の生徒数の差は、留学や転学によるもの。

### (3) 主な取組

#### ア 進学に関する取組

- ・国公立大受験を目指す生徒等に対応し、毎週火、水、金の3日間に通常より1時間多い7時限授業を実施している。〔1学年は国語総合・数学Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅰ、2学年は数学B、3学年は古典A〕（1年36名、2年25名、3年20名）
- ・希望する進路実現に向けた学年別進路説明会の実施（年間3回）
- ・資格取得の推進（GTEC※5、英検の実施）
- ・1学年時からインターシップや大学等への体験入学等を積極的に推進し、生徒が自己の人生を見据えた進路選択が出来るよう配慮したきめ細かな進路指導を行っている。

5

#### イ 学力向上・授業改善に係る取組

- ・少人数授業（1年国語1クラスを2グループに分ける）、習熟度別授業（1年数学、英語2クラスを3グループに分ける）の実施。
- ・朝読書の実施（毎朝、始業前5分間：全学年）。
- ・早朝、昼休み、放課後を使っての補習を実施。
- ・夏季休業中に1学年は基礎学力、2学年は基礎及び進学、3学年は受験指導を主な目的として「夏期特別講座」（今年度は11講座）を実施している。国語、社会、数学、理科、英語等の各講座は1回2時間で5～7回を開講。その他、進路指導講座として7回実施している。
- ・ICTを活用した授業動画により生徒各自が振り返りを実施している。（1本5分程度）
- ・基礎学力の定着のため、全学年で漢字テストを年8回及び英単語テストを年7回実施している。また、1学年は数学計算力テストを、2・3年は英語（文法や慣用句等）テストを年6回実施している。

6

## ウ その他

令和3年6月に「持続可能な地域づくりに貢献できる地域創生リーダー」としての、人材育成及び生徒により良い学びを提供するための環境づくりとともに地元大多喜町を中心とする夷隅地域の活性化を目指して、連携機関（コンソーシアム）※7を設置している。

### ① 総合的な探究の時間（大高探究）

- ・ 探究活動に必要な基本的な技法を習得する。
- ・ コンソーシアムによる出前授業により、大多喜町の歴史・文化・資源・環境・健康福祉・交通等について理解を深め、共通の興味・関心を持つ生徒でグループをつくり、テーマを設定し、協働して研究を進める。
- ・ フィールドワーク等実地調査等を実施して、大多喜町に関する探究活動を行い、発表会を行う。

7

### ② 大多喜共創プロジェクト（課外活動）

- ・ いすみ鉄道活性化プロジェクト・・・いすみ鉄道でのマンドリンギター部によるマンドリンギター列車の運行、駅舎の掃除
- ・ 読書活動（読み聞かせ）推進プロジェクト・・・小学校での読み聞かせの実施（読み手）
- ・ 大多喜町・元気まつり活性化プロジェクト・・・大多喜町2大祭り開催時の補助、町の活性化に向けた研究への参画
- ・ インターンシップ・ボランティア推進プロジェクト・・・竹林整備、幼稚園・小中学校との交流

8

## 大多喜高校への支援

- ・ 人的支援
- ・ 金銭的支援

9

## 人的支援

- ・ 大多喜高校支援推進委員会
- ・ 大多喜高校魅力化コンソーシアム会議
- ・ 大高探究等への講師派遣
- ・ キャリア教育の受け入れ

10

## 千葉県立大多喜高等学校支援推進委員会設置要綱（抜粋）

平成28年4月21日

教育委員会告示第8号

（設置）

第1条 少子化による生徒数の減少により県立高校の再編及び統廃合の検討がされる中、本町に創立され110余年の伝統を持つ千葉県立大多喜高等学校（以下「大多喜高校」という。）の存続に向けた取組を実施するため、千葉県立大多喜高等学校支援推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（検討事項）

第2条 委員会の検討事項は、次のとおりとする。

- （1） 大多喜高校支援推進に関する事項
- （2） 大多喜高校生徒の学習支援に関する事項

11

## 大多喜高校魅力化コンソーシアム設置要綱（抜粋）

令和3年6月3日

（設置）

第1条 本コンソーシアムの名称は「大多喜高校魅力化コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）」とする。

（目的）

第2条 コンソーシアムは、大多喜高校が目標とする「持続可能な地域づくりに貢献できる地域創生リーダー」としての人材育成及び生徒により良い学びを提供するための環境づくりとともに地元大多喜町を中心とする夷隅地域の活性化を目指して、大多喜町、大多喜町教育委員会及び賛同企業、連携大学等の高等教育機関等と大多喜高校が協働体制を構築し、教育活動を展開することを目的とする。

（協働事業）

第3条 コンソーシアムは前条の目的を達成するため、次の協働事業を行う。

- （1） 大多喜高校支援推進に関すること
- （2） 地域の活性化に係る取組に関すること

12

## 大高探求（令和4年6月16日実施）

所属課	メインテーマ	担当職員	授業概要	使用するもの
教育課	好き！！得意！！を生かせる幼児教育	大多喜町立みつば保育園 松本 まどか	・幼児教育の資格取得にあたって ・保育現場のあれこれ ・大多喜町保育園の様子など	資料が掲示できるもの (黒板、ホワイトボード など)
教育課	学校の先生ってこんな仕事①②	大多喜町立大多喜中学校 鶴岡 利明	大多喜中職員の実態、教職の魅力、なぜ教職はブラックなのか、教員生活を振り返って	大型モニター又はプロジェクター (P C等は持参します)
農林課	有害獣対策の現況について	農政係 桐生 翼	農作物被害状況、町の捕獲頭数、被害対策と課題、捕獲獣の活用等について	資料配布あり
生涯学習課	或る大多喜藩主の一生	社会教育係 小高 春雄	大多喜藩江戸屋敷から大多喜城三ノ丸へと移り住んだ大多喜藩士の日常とはどんなものであったか。	プロジェクター
健康福祉課	シニアが活躍 ～支えあう町「大多喜」～	介護保険係 黒須 直也	大多喜町の高齢者事業について。	配布資料
商工観光課	生まれ変わる大多喜城 ～町の観光拠点として～	観光係 加藤 奈緒樹	観光拠点としての 大多喜城 現状と未来	配布資料のみ

13

## キャリア教育の受入れとして

- ▶ 職場体験の受入れ（役場など）
- ▶ 選挙の立会人
- ▶ 教員養成講座

14

## 学校外の学修の単位認定について (教員養成に関する取組)

### 1 目的

本校では、毎年10名を超える生徒が将来の進路として、教育関係職を希望し、大学、短大、専門学校へ進学している。このような実態を踏まえ、教育に関心を持ち、将来教員を目指す生徒が、教員としての基礎的な素養を身に付けるとともに、夢や意欲、職業意識を育む。

### 2 内容

- (1) 教育系高大連携校による、長期休業中における出前授業や特別講座、大学の講義体験、学生との交流会を行う。
- (2) 近隣の幼稚園、保育園、小学校、中学校、特別支援学校等との連携による、教育体験実習、学習支援活動を実施し、教員としての職業意識を育成する。
- (3) 大多喜町と連携し、地域の教育に関する講座を実施する。

3 実施期間 令和4年4月～令和5年3月

4 修得単位数 (令和4年度申請、令和5年度より本格実施) 1単位

5 受講者の選出 4月当初に年間計画を提示し、校内で募集する希望制とする。(学年問わない)

6 協力団体 大多喜町・大多喜町教育委員会・いすみ市教育委員会・勝浦市教育委員会・御宿町教育委員会・長生郡市内各教育委員会・植草学園大学・三育学院大学・千葉工業大学・コンソーシアム関連団体

15

### 【講座内容 (年間計画)】

### ◆希望者のみ実施

No	月日	内容	会場	備考
1	5/2 (月)	オリエンテーション (説明会) (4/6～4/22希望調査)	視聴覚室	15:50～ 30分
2	5/23 (月)	教育の魅力について I	視聴覚室	(中間考査最終日) 13:00～ 町教育長 50分
3	6/16 (木)	学校の日常について	教室 (出前講座内)	13:15 (5～6限) から 町中学校長 50分
4	7月 ～8月	教育体験実習・学習支援 (夏季休業期間)	近隣の保育園・幼稚園・ 小学校・中学校 特支学校	2日間 (終日) 行き先については別途希望を とります
※ 5	7/11 (月)・12 (火)	高大連携校による特別授業 (期末考査答案返却期間) (植草学園大学 他)	視聴覚室	(答案返却2・3日目) 13:00～ (2日間) 60分×2講座
6	9/12 (月)	教頭講話&教育実習生講話	視聴覚室	15:50～ 教頭・実習生 50分
7	10月予定	教育体験実習	夷隅特別支援学校	1日 (終日)

16

No	月日	内 容	会 場	備 考
8	11/17 (木)	先生っていいもんだ (県教職員課主催)	視聴覚室	15:40～ 60分
9	1 2月	教育体験実習・学習支援 (冬季休業期間)	近隣の保育園・幼稚園・ 小学校・中学校 特支学校	1日(終日) 行き先については別途希望を とります
※ 10	12/19 (月)	高大連携校による特別授業 (期末考査答案返却期間) (植草学園大学 他)	視聴覚室	(答案返却最終日) 13:00～ 60分×2講座
11	1/16 (月)	校長講話 (期末考査答案返却期間) 取組状況発表(受講者より)	視聴覚室	校長・受講者 70分
12	3/10 (月)	教育の魅力についてⅡ	視聴覚室	(学年末考査最終日) 13:00 ～町教育長 50分
♦(13)	9月～10月	(小学校読み聞かせ)	(近隣小学校)	10分×3日(30分)

※夏季休業前(全て植草学園大学の先生方)・冬季休業前(1日)の大学連携講義について  
 講義1 教育心理学 金子 功一 講師  
 講義2 身体活動とコミュニケーション 鈴木 瑛貴 講師(オンライン)  
 講義3 特別支援教育入門(障害とは何か) 名古屋 恒彦 教授  
 講義4 価値観と視点を変える 村上 悦子 准教授  
 講義5・6については、現在検討中  
 講義5 教育者・保育者に求められる言葉の力 講義6 教職に就くということ

17

## 金銭的支援

大多喜高校支援事業補助金で

- ・スタディサプリ(H26～R1)
- ・英語教師補助(R2～)

18

## 大多喜町大多喜高校後援会支援事業補助金交付要綱（抜粋）

平成25年3月29日

告示第22号

（趣旨）

第1条 この要綱は、永年にわたり地域に根差した学校づくりを進める千葉県立大多喜高等学校の教育事業を後援し、その充実及び発展を図るとともに地域文化の向上に寄与することを目的とする千葉県立大多喜高等学校後援会（以下「後援会」という。）に対し、予算の範囲内において、大多喜町補助金等交付規則（昭和55年規則第12号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、補助金を交付することに関し必要な事項を定めるものとする。

（補助対象事業）

第2条 補助金の対象となる事業は、次に掲げる事業とする。

- （1） 教育活動の支援に関する事業
- （2） 部活動の助成に関する事業
- （3） 地域活動の支援に関する事業
- （4） その他町長が必要と認める事業

次期県立高校改革推進プラン（案）に関する意見募集結果について

千葉県教育庁企画管理部教育政策課

- 1 意見募集期間  
令和3年12月22日（水）から令和4年1月18日（火）まで
- 2 意見提出状況（意見の延べ件数）  
意見提出者数 61名（320件）  
内訳：電子メール（33）、ファクシミリ（7）、郵送（21）
- 3 提出された意見と県の考え方  
別紙のとおり

## 県立高校改革推進プラン（案）に関する意見と県の考え方

※提出された意見について、趣旨を損なわない範囲で要約させていただきました。

意見の概要	県の考え方
<b>計画の基本的な考え方</b>	
過疎地に住みアルバイトで家計を助ける生徒や家事を担う生徒、家族を介護する生徒にとって、自転車で通える地元高校は不可欠と思います。	御意見も参考にしながら、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。
なぜ策定懇談会委員名簿を載せないのですか。	巻末の参考資料に掲載いたしました。
副座長意見の「教育委員会の学校への指導支援、財政支援、人事支援、事務室の改革、環境整備を」や、委員の「1市町1校の場合の特段の配慮」は、もっともな意見と思います。しかし、今回発表された案に、これらの意見は反映されていません。不採用となった理由をお教えください。	いただいた御意見については、新プランを推進する際の参考とさせていただきます。
新プラン作成には、他県がどのようなプランを作っているのか、前プランの「改革の方向性」等が達成状況を評価し、達成できなかった箇所の原因分析が必要だと思います。	前プランの評価につきましては、再編の実施年度から3年が経過し、初めての卒業生が輩出される年に合わせて各種調査を行い、外部からの意見聴取を実施しながら行っています。いただいた御意見については、新プランを推進する際の参考とさせていただきます。
なぜ「策定のプロセス」に、前プラン「改革の方向性」等の達成度評価を載せないのですか。	
なぜ前プラン「改革の方向性」の「道德教育、キャリア教育、学力向上、学校運営」の達成度の評価を掲載しなかったのですか。	
なぜ前プランの「実施プログラム」は、総合学科への転換や学科・コースの設置など、いわゆる「高校再編」に限定しているのでしょうか。	前プランの実施プログラムは、生徒減少が著しい地域への対応や雇用状況、産業構造の変化への対応など、県立高校を取り巻く状況や課題等を踏まえ、策定しております。
なぜ前プランの実施プログラムでは「道德教育、キャリア教育、学力向上、学校運営」関係の施策群を掲載しなかったのですか。	
「改革の方向性」を着実に実現するには、他県プランのように教育課程、教員研修、学校経営、人事、外部人材配置、地域連携組織、包括連携協定、小・中学校・大学・他の高校との学校間連携、施設・設備・備品の整備も含めた「高校教育全般」にしなければ画餅になってしまいます。	いただいた御意見については、新プランを推進する際の参考とさせていただきます。
前プランの「改革の方向性」のうち、高校再編以外の到達度を評価・検証しなかったのですか。	御意見も参考にしながら、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。いただいた御意見については、新プランを推進する際の参考とさせていただきます。
なぜ策定のプロセスに中教審答申 P23 からの「今後の方向性」の一部分しか載せないのですか。	特に関連性の高いものに限らせていただきました。

<p>策定のプロセスに「連携・分担による学校マネジメントの実現、ICTとの最適な組み合わせの実現、履修主義と修得主義の組合せの適切な実現」は重要と思いますが、なぜ載せないのですか。</p>	<p>中央教育審議会答申の趣旨を踏まえ、改革の方向性（１）（６）の中で示しております。</p>
<p>なぜ県立高等学校の課題に中教審答申 P23 からの「今後の方向性」の「連携・分担による学校マネジメントの実現、ICTとの最適な組み合わせの実現、履修主義と修得主義の適切な組み合わせの実現」等を載せないのですか。</p>	
<p>改革の方向性の（１）に中教審答申にある「ICTとの最適な組み合わせ」や「履修主義と修得主義の適切な組み合わせ」を載せないのですか。</p>	
<p>なぜ県立高等学校を取り巻く国等の状況にOECDの日本の教育の評価と改善点の指摘、国の教育再生実行会議での議論と提言、国の教育振興基本計画、中教審への諮問と議論を載せないのですか。</p>	<p>いただいた御意見については、新プランを推進する際の参考とさせていただきます。</p>
<p>なぜ県立高等学校の課題に中教審答申「学習意欲の低下、教師の疲弊、情報化への対応の遅れ」等を載せないのですか。</p>	<p>いただいた御意見については、新プランを推進する際の参考とさせていただきます。</p>
<p>なぜ県立高等学校の課題に中教審答申 P 7 からの「自ら課題を見つけ解決する力の不足、同調圧力、学習意欲の低下、働き方改革」を載せないのですか。</p>	
<p>なぜ今後の産業構造予想と、今後の産業分類別の従業員の需給予想等を載せないのですか。</p>	<p>今後のキャリア教育の充実に向け、本県の現状を示すものとして掲載しております。</p>
<p>前プラン、他県プランでは P 5 のような観点はないのですが、なぜ今回加えたのですか。</p>	
<p>なぜ困窮家庭でアルバイトをしなければならない生徒、家事をしなければならない生徒、家族の介護をしなければならない生徒、日本語が不自由な生徒の増加を載せないのですか。</p>	<p>いただいた御意見については、新プランを推進する際の参考とさせていただきます。</p>
<p>なぜ基本的コンセプトの（２）に「働き方改革」を載せないのですか。</p>	<p>いただいた御意見については、新プランを推進する際の参考とさせていただきます。</p>
<p>基本的コンセプトに「（５）様々な困難を抱える子どもが自力で通える地域の学校」を追加し、「困窮家庭、家事負担、家族介護、日本語が不自由な子どもが自力で通える地元高校を維持するため、郡部の学校間でグループをつくり教員が学校間を移動するなどして多様な授業を展開する」旨を載せてください。</p>	<p>県立高校における課題（P 4）として認識しており、改革の方向性（４）（８）、計画実施上の重点事項（３）でお示ししている内容を具現化してまいります。また、郡部の学校間連携については、引き続き検討してまいります。</p>
<p>なぜ新プランでは、改革の方向性から前プランの主要項目「道徳教育、学力向上」が消えたのですか。</p>	<p>新プランは、生徒の多様なニーズへの対応、キャリア教育・職業教育の充実及び人口の減少など、本県の県立高校を取り巻く課題等を踏まえ、策定しております。</p>
<p>案には「懇談会でいただいた意見を踏まえる」とあります。新プランでは、「改革の方向性・重点事項」が画餅にならないよう、副座長意見「教育委員会の学校への様々な支援」、具体的には他県のような「教員の業務軽減計画、社会に開かれた教育課程実現のためのコーディネーター等外部人材配置計画、探究・地域協働の学び実現のための教員意識改革等研修計画・学校経営力強化計画、プレゼンテーション用大教室や図書の実等環境整備計画」等を明確に掲載願います。</p>	<p>改革の方向性（６）でお示ししておりますとおり、教育環境の整備について具現化を図ってまいります。</p>

<p>改革の方向性（１）の「大規模な単位制高校」は国の方針には無く、唐突で疑問です。</p>	<p>多様な選択科目の設定により、進路希望や興味・関心に応じた学習が可能となる単位制高校をより大規模にすることで、生徒の多様な学習ニーズに更に応えることが可能になると考えております。</p>
<p>改革の方向性（４）の「定時制高校」は評判が悪いので「様々なイメージアップを図る」と記載した方が良いです。</p>	<p>いただいた御意見については、新プランを推進する際の参考とさせていただきます。</p>
<p>改革の方向性（５）の前段に「各校の取組を踏まえ」を追記した方が良いです。</p>	<p>スクールポリシーについては、これまでの各校の取組等も踏まえ、策定するものと考えております。</p>
<p>改革の方向性（５）の後段に、中教審答申にある「地域住民と連携・協働し、学校と地域が相互にパートナーとなって」「教員の意識改革」を載せないのですか。</p>	<p>改革の方向性（５）及び（７）において述べております。</p>
<p>改革の方向性の（５）に中教審答申にある「連携・分担による学校マネジメントの実現」を載せないのですか。学びの改革はコーディネーターを活用した学校関係者、地域・企業等との連携学習が要です。多忙な教員の業務軽減を図るため、臨時講師等の配置、PTA・住民等の支援も重要です。「働き方改革」を明記し、現場の教員と教員を志す大学生に安心感を与えてください。</p>	<p>新プランにおいては、学校と他機関を円滑に繋ぐ役割としてのコーディネーターの配置について検討してまいります。</p>
<p>改革の方向性の（６）について、中教審答申には「加速度的な産業の変化に対応するため、地域産業界と一体となって」と書かれています。なぜ職業系高校の施設設備の近代化を載せないのですか。</p>	<p>いただいた御意見については、新プランを推進する際の参考とさせていただきます。</p>
<p>なぜ改革の方向性（７）にコンソーシアム設置推進、県教育委員会での包括連携協定締結等を載せないのですか。</p>	<p>いただいた御意見については、新プランを推進する際の参考とさせていただきます。</p>
<p>改革の方向性（８）について、生活費支援、家事支援、介護支援、日本語が困難な子どもなど、様々な困難を抱える子どもへの配慮として、郡部では自力通学できる地元高校をこれ以上減らさないこととすべきです。</p>	<p>今後、実施プログラムにおいてお示ししてまいります。</p>
<p>なぜ計画実施上の重点事項（１）に、中教審答申P23からの「教科横断的で探究的な学び、地域協働の学び 個別最適な学び」について記載しないのですか。（同様の趣旨でほか1件）</p>	<p>御意見を参考にしながら、「教科横断的で探究的な学び、地域協働の学び 個別最適な学び」が実現できるよう、新プランを推進してまいります。</p>
<p>なぜ計画実施上の重点事項（３）に学校関係者、小学校、中学校、大学、研究機関、企業等との連携を記載しないのですか。</p>	<p>御意見も参考にしながら、大学・企業等と連携し、生徒の興味・関心に応じた幅広い学びの機会を提供してまいります。</p>
<p>「1 普通科及び普通系専門学科・コース」の前に、中教審答申P49以降に記載されている次の項目を追加すべきです。中教審答申は重視すべきと思いますが、御見解をお願いします。①各校の存在意義、社会的役割等の明確化②各校の入口から出口までの教育活動の指針の策定③高等教育機関や地域社会等の関係機関と連携・協働した高度な学びの実現④スクールポリシーに基づく地域と協働した学校経営⑤スクールポリシーに基づく全授業の系統化と不断の見直し⑥地球温暖化など社会問題に積極的に取り組む学びの実現</p>	<p>新プランにおいては、スクールポリシーに基づく各校の魅力化・特色化を進めてまいります。</p>

<p>人口減少に対して私立学校も含めた高校の設置状況を踏まえた高校の適正配置の在り方について検討とあるが、6000名の生徒減少は20校以上の高校の存続に影響を及ぼす。また、減少傾向は既に始まっている。学校統廃合以外の明確な施策を示していただきたい。</p>	<p>学校の適正配置及び生徒募集定員の調整により進めてまいります。</p>
<p>改革の方向性（1）の従来の学校規模にとらわれない大規模な単位制高校の設置とあるが、大規模校とは、どういった学校なのか？また、現行の単位制高校がその特色を生かしているとは思えない。今後どのような施策を計画しているのか？具体的に記していただきたい。</p>	<p>今後、策定する実施プログラムにおいて示してまいります。</p>
<p>計画実施上の重点事項（2）に記載されている高校入学前に…生徒や教職員が小・中学校を訪問する…小・中学生が高校を訪問して…とあるが、こうした活動は公立高校への生徒の誘導・囲い込みにならないか？私学がこの様な活動を直接行うことは不可能である。何故、私学との協働の視点がないのか。これも“戦略的”的な広報活動の一環なのか。（同様の趣旨でほか1件）</p>	<p>専門科目や特色ある学びをとおして、小・中学校のキャリア教育を支援してまいります。</p>
<p>計画実施上の重点事項（3）学校間連携に記載されている、この取り組みに該当地域の私立学校も含むのか？</p>	<p>第3期千葉県教育振興基本計画を踏まえ、公立高校と私立学校との連携を推進してまいります。</p>
<p>人口の減少により今後10年間で中学校卒業者が6,200人減少するとなっているが、これは県全体で150学級程度の募集定員削減が必要となる。県として私立高校設立を要請した経緯、私立高校の統合や学校規模縮小が難しいことや、首都圏の公私比率とのバランスを考えると公立高校の大幅な定員減(6,000人程度)が必要となることを大前提とし、その元での特色ある改革推進プランであることを明記する。</p>	<p>御意見を踏まえ、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。</p>
<p>中学校卒業生数が10年後までに約6,200人の減少が見込まれています。少子化の影響が教育の低下を招かないよう公私が協調した対応を要望します。具体的には、公立高校は、適正規模・適正配置の方針に従った対応、私立高校は募集定員の厳守を要望します。特に私立高校の定員を超えた生徒確保は、郡部にある私学経営を圧迫するとともに定員超過による教員確保は講師に頼る学校運営が予想され、教育の低下につながります。私立高校には定員順守を強く要望します。</p>	
<p>基本的コンセプトは、令和3年1月26日付け中教審答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指してを踏まえており、時宜にかなった設定である。</p>	<p>御意見を踏まえ、新プランを推進してまいります。</p>
<p>教科横断的な学びや探求的な学びの推進は、令和4年度から学年進行で実施される新しい学習指導要領の趣旨に沿ったものでありぜひとも取り組むべき内容である。</p>	<p>御意見を踏まえ、新プランを推進してまいります。</p>

<p>スクールミッションの観点は的確である。</p>	<p>御意見を踏まえ、全ての県立高校の魅力化・特色化を推進してまいります。</p>
<p>第4学区から第9学区までのいわゆる郡部においては、学区制を廃止または緩和し、県内あるいは、国内どこからでも志願できるようにして、生徒を確保できるようにすべきではないか。</p>	<p>御意見も踏まえ、県内全域や全国からの受入れも含めた、柔軟な生徒募集の在り方について検討してまいります。</p>
<p>改革の方向性（8）に関して。 高校の適正配置について、都市部の高校を減らし、郡部の高校を増やすことはできないか。都市部から郡部へ生徒が移動することで生徒数確保や、将来の関係人口創出に貢献できないか。</p>	<p>県立高校の適正規模・適正配置については、今後、地域協議会を設置し、幅広く意見を伺いながら検討してまいります。</p>
<p>計画実施上の重点事項（3）に関して。 高校の単位制を活用し、他高校の授業を2単位程度取得することを義務化して、高校内で完結しない人間関係の構築や、単一高校のみでは得られない経験ができる環境を整え、生徒の成長を助長させると良いのではないか。</p>	<p>新プランにおいては、学校間の垣根を越えて連携し、各校の特色を生かした取組を拡充することにより、更に充実した学校間連携を推進してまいります。</p>
<p>改革の方向性（2）にも探究的な学びの推進が記載されているところではありますが、P12に魅力ある学校づくりの推進の普通科に関する中に、探究に関する文言が1つありません。普通科に変えて探究科というほど、国として取り組んでいるところであることも踏まえると、普通科の魅力ある学校づくりの取組に、探究に関する項目があるべきではないでしょうか。</p>	<p>いただいた御意見については、新プランを推進する際の参考とさせていただきます。</p>
<p>人口の減少について、私立学校も含めた高校の設置状況のところにも市立学校も含めてほしい。</p>	<p>設置者である市教育委員会と連携・協力してまいります。</p>
<p>市立高校との話し合いも含めてほしい。通学バス（スクールバス）があるとありがたい。</p>	
<p>秋校は要らないのか。</p>	<p>秋季入学については、三部制定時制及び通信制高校で実施しております。また、新プランにおいては、生徒の多様な学習ニーズに対応した教育活動を行う様々なタイプの学校づくりを進めることとしていきます。</p>
<p>机と椅子がバラバラになったものじゃなくて机と椅子がいっしょになっているものを用意してほしい。</p>	<p>生徒、職員が生き生きと活動できる教育環境の実現に向け、貴重な御意見として承ります。</p>
<p>二ツ穴のバインダー（これも海外ではよく使われる）が必要。</p>	
<p>制服は大正だったか生徒は和服、先生は洋装とバラバラだったので学服制が導入されたとも聞く。もうそろそろ鞆と帽子があればいいんじゃないか。</p>	<p>貴重な御意見として承ります。</p>
<p>部活動は、土曜日週1の午前中か平日週5で1日2時間程度にしてほしい。どちらか選べる。文化部は週2なら（土）にもできる。それで公認のコーチをつけてほしい。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の施策を実施する際の参考とさせていただきます。</p>

<p>外国では卒業後に1年の専門学修校が備えられていることもある</p>	<p>いただいた御意見については、新プランを推進する際の参考とさせていただきます。</p>
<p>「(2) 県立高等学校の課題」の項について郡部の小規模校で定員割れが続いている高校の教員が最も悩んでいることは、  (1)意欲の極端に低い生徒が入学し、授業が成り立ちにくくなっていること。  (2)特別支援系の手当てが必要な生徒が多いのに、適切に対応できるだけの教員配置がないこと。  (3)職業系専門学科において、必然性の低い生徒が入学してくること。  の3つだろう。  そう考えると、「案」では、現在の県立高校が抱えるかなり大きな課題について、正面から見据えた記述にはなっていないのではないか。確かに4ページの1行目から「高校生の学ぶ意欲～ますます多様化しており」という記述はあるが、いわゆる教育困難校の日々の苦労が「多様化」の一言で括られてしまうのでは、困難校の教員の日々の苦労を直視した上での表現とは言えない。もう少し現実を踏まえた表現、例えば職業系高校についてなら「必然性のない生徒が大勢入学することによって空洞化が発生し、学科の存在意義が根本から脅かされている」というぐらいの踏み込んだ記述が必要ではないか。</p>	<p>引き続き県立高校の課題解決に向けて取り組んでまいります。</p>
<p>「5 計画実施上の重点事項」の「(1) 全ての高校の魅力化と学びの改革」の項についてこの「案」全体にその傾向が強いように感じるが、特に、この項では、教育が経済活動の中に完全に組み込まれ、経済界に必要な「人材」を育成することが高校教育の使命だ、と言わんばかりの表現のように感じる。「高校の魅力化」は必要だろうが、魅力化と経済界の求めに応じるかのような人材育成への力点の置き方とは切り離して考える必要があると思う。</p>	<p>生徒が予測困難な社会においても、自分の良さや可能性を認識し、多様な人々と協働しながら、豊かな人生を切り拓くことができるよう、人材育成に努めてまいります。</p>
<p>特に先行きが不透明なこの時代には教科横断的な探究的な学び、キャリア教育等はとても重要だと考え、「全ての高校の魅力化と学びの改革」や「キャリア教育と職業教育の推進」を重点項目に挙げられているのは大いに共感できます。ぜひ、同プランを進めていただき、生徒一人ひとりの笑顔のために実施していただければと考えます。</p>	<p>御意見を踏まえ、新プランを推進してまいります。</p>
<p>3 基本的コンセプト(目指すべき県立高等学校像) (1) (2) (3) (4)に(5)を追加して下記を加えること。  (意見)  (5) 誰1人取り残さない教育を保障する学校  ○すべての生徒に同じ教育を受ける権利を保障し、人間形成の場としての学校づくりを進めます。</p>	<p>基本的コンセプト(3)及び改革の方向性(4)において、誰一人取り残さない教育を推進してまいります。</p>

<p>昨年3月の『公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律（以下「義務標準法」という）』の改正動向及び近年の「学校における働き方改革」について記述した上で、「I 計画の基本的な考え方」において、具体的な計画に反映するべきです。</p>	<p>今後も国の動向を注視してまいります。</p>
<p>「第3期千葉県教育振興基本計画 次世代へ光り輝く『教育立県ちば』プラン」中の11に及ぶ施策の中でも、とりわけ「人間形成の場としての」学校（施策5）に着目して、唯一記載していることを評価します。</p>	<p>今後も生徒の人間形成の場としての役割を果たしてまいります。</p>
<p>案の内容に加えて、答申『はじめに』最後の、「これまでの日本の学校教育が担ってきた役割（学習機会と学力を保障するという役割のみならず、全人的な発達・成長を保障する役割、人と安全・安心につながるができる居場所としての福祉的な役割）の重要性は変わることなく、それを継承する」という部分も記載するべきです。</p>	<p>基本的コンセプト（1）及び改革の方向性（4）においてお示ししております。</p>
<p>（2）県立高等学校の課題 ア 生徒の多様なニーズへの対応4行目の「依然として」を削除する。</p>	<p>御意見を踏まえ、修正いたしました。</p>
<p>「ア」の生徒の多様なニーズへの対応、特に「日本語指導が必要な生徒の増加」と高校教育での「対応」の課題について具体的に触れるべきです。その際、「イ」の内容のうち5ページの円グラフや表の説明部分はもう少し整理した上で、2020年3月に策定された「千葉県多文化共生推進プラン」の「子どもの教育環境の整備【背景と取組の状況】」からの引用等をするべきと考えます。</p>	<p>本プランは、全ての県立高校の魅力化、特色化を進める視点から、今後、必要となる高校改革の施策を位置づけております。</p>
<p>「ア 生徒の多様なニーズへの対応」についても資料が必要です。特に、「困難を抱えた生徒」や「日本語指導が必要な生徒」の増加傾向がわかるグラフを、調査済みのデータを基に載せるべきです。</p>	
<p>求人数・就職者数は、本社地と就業地のどちらの数字であるのか明示するべきです。</p>	<p>求人票は本社（採用する会社）が所在する地域のハローワークに出すものであり、本社地か就業地かを判別することができません。</p>
<p>3 基本的コンセプト（2）の項目名及び本文について 項目名に「教職員」という文言の入っていることは勿論、本文最後にも「教職員も生きがいを感じ、」以下の表現のあることを評価します。</p>	<p>御意見を踏まえ、生徒・教職員が生き生きと活動できる学校づくりを進めてまいります。</p>
<p>3 基本的コンセプト（3）本文1つ目の○の中ほど、「郷土や国を理解し愛する心」は、「郷土や国の文化を理解し、多様な価値観を尊重する心」と修正するべきです。</p>	<p>新プランにおいては、第3期千葉県教育振興基本計画に基づき、「郷土と国を愛する心と世界を舞台に活躍する能力の育成」を推進してまいります。</p>
<p>4 改革の方向性（5）本文第2段落の「…教職員全体の教育力の向上を図る」を、「教職員増により教育力の向上を図ります。」と修正するべきです。</p>	<p>新プランを着実に実施し、生徒・教職員が生き生きと活動できる学校づくりを推進してまいります。</p>
<p>4 改革の方向性（6）の項目名については、基本的コンセプト（2）で「生き生きと」の範疇に入っていた教職員も含めるべきです。例えば、次のように修正するべきです。 「生徒が生き生きと学び、教職員も生き生きと働ける教育環境の整備」 「生徒も教職員も生き生きと学び、働ける教育環境の整備」など。</p>	

<p>5 計画実施上の重点事項  (1) 全ての高校の魅力化と学びの改革  3段落1行目「…未来を担う人材の育成」の「人材」は「人間」と修正する。同3行目「…育成が求められる人材は…」の「人材」は「資質・能力」と修正する。また、同6～9行目 ①～④の「…人材の育成」の「人材」は「人間」と修正するべきです。</p>	<p>「人材」の記載については、国や本県の教育振興基本計画等にも使われていることから、本プランにおいても同様の記載としております。</p>
<p>(2) キャリア教育と職業教育の充実  第2段落1行目の「～将来の職業選択について考えることができるよう」を「～将来について考えることもできるよう」と削除・修正するべきです。</p>	<p>キャリア教育と職業教育の充実においては、早期から将来の職業について考える機会を設けることが重要であると考えております。</p>
<p>(3) 学校間連携、(4) 戦略的な広報については、教職員増の発想が必要です。</p>	<p>学校間連携については、コーディネーターの配置などにより、支援してまいります。また、戦略的な広報については、現場の教職員の負担にならないよう、支援してまいります。</p>
<p>国を挙げて学校の「働き方改革」に取り組む中、意味のある事業であっても、学校現場の負担増を招くことは必至です。従って、教職員増に踏み込むべきです。言及してください。</p>	
<p>策定される今回のプランを基にした、実施プログラムの対象か否かを問わず、「基本的コンセプト・改革の方向性」を実現するためには、教育予算の確保が欠かせません。そのためにも、貴委員会の尽力を願ってやみません。</p>	
<p>企業や地域が求めているものを高校でどのように学ぶのかを示すことが、小中学校の児童生徒の進路選択につながると考える。</p>	<p>いただいた御意見を十分踏まえ、新プランを推進してまいります。</p>
<p>「2 (1) 県立高等学校を取り巻く国等の状況」に「改正バリアフリー法施行」と「医療的ケア児支援法施行」に関する記述を追加すること。(同様の趣旨でほか1件)</p>	<p>御意見につきましては、今後、施策を検討していく上での参考とさせていただきます。</p>
<p>「基本的コンセプト」に下記の記述を追加すること。  (5) 学校のバリアフリー化を促進して誰もが安全・安心して学校生活することができ、地域の避難所等の役割もはたせるようにする。  (6) 高校進学を希望する全ての人への高校教育を実現する学校  (7) 医療的ケアの必要な生徒への対応  (8) 定時制及び三部制定時制高校の夜間部において、自校式給食提供の復活</p>	<p>御意見につきましては、今後、施策を検討していく上での参考とさせていただきます。</p>
<p>「4 改革の方向性(4)」に追加校舎のバリアフリー化を進める(同様の趣旨でほか1件)</p>	<p>県立高校のバリアフリー化については、平成29年11月に策定された「千葉県県有建物長寿命化計画」に基づき進めていくほか、車いすの利用等、校内の移動に支障がある生徒が在籍する学校については、階段昇降機の設置やエレベーターを整備するなどの対応をしているところです。</p>
<p>「(1) 県立高等学校を取り巻く国等の状況」に改正バリアフリー法に関する記述を下記のように追加すること。  高校においてもバリアフリー化による教育環境の整備を進める必要があります。</p>	
<p>「(2) 県立高等学校の課題」に下記記述を加えること。  バリアフリー化の促進  エレベーターを必要とする生徒が高校にエレベーターが設置されていないことで、希望する高校をあきらめることのないように、計画的にエレベーターを設置し校舎のバリアフリー化を進めていく必要があります。</p>	

<p>「3 基本的コンセプト（目指すべき県立高等学校像）」に下記を加えること。  (5) バリアフリー化を促進して誰もが安全に過ごせ、地域に役立つ学校  ○学校のバリアフリー化促進によって生徒の学校生活が安心・安全なものとなると同時に、地域連携や災害時の避難施設としての役割をはたし、地域の安心と安全に寄与する学校づくりを進めます。</p>	
<p>「5 計画実施上の重点事項（1）全ての高校の魅力化と学びの改革」の「スクールミッションの観点」に次の1点を追加すること。  ⑤多様性とバリアフリーの環境の中で学び、既存の価値観にとらわれずに自らと社会の未来を開く人材の育成</p>	
<p>いずれのページも【具体計画の方向性】の項目に下記を追加すること。  ○多様な人材に対応できるようバリアフリー化と授業のユニバーサル化を進めます。</p>	
<p>4 改革の方向性（4）に追加  定員内不合格をなくし、高校で教育を受けたい生徒にその機会を保障する（同様の趣旨でほか1件）</p>	<p>県立高等学校の入学者選抜については、実施要項に基づき、適切に実施しております。</p>
<p>「県立高等学校の課題」に下記を加えること  募集定員は県民への公約である。高校で学びたいと願う生徒を誰ひとり取り残すことなく教育を受けられるようにする。未来にはばたけるようにすべき。そのため少なくとも定員内での不合格は決して出してはいけないし、それが県民との公約実現となる。</p>	
<p>「（2）県立高等学校の課題」に下記記述を加えること。  定員が空いている場合は定員内での不合格者を出さずに、高校で学びたいと願う生徒が誰ひとり取り残されることなく高校の教育を受ける機会を得られるようにする必要があります。</p>	
<p>「3 基本的コンセプト（目指すべき県立高等学校像）」に下記を加えること。  (6) 誰ひとり取り残さない高校教育を実現する学校  ○入学者選抜において募集定員の空いている高校においては不合格者を出さずに、高校で学びたいと願う生徒が誰ひとり取り残されることなく高校の教育を受ける機会を得られるようにします。</p>	
<p>【具体計画の方向性】の項目に下記を追加すること。  ○高校教育のセーフティネットとして、定員内での受検生は全て受け入れて教育の機会を保障します。</p>	<p>県立高等学校の入学者選抜については、実施要項に基づき、適切に実施しております。</p>
<p>個々の生徒のニーズ調査は何度もきめ細かに行き、その都度進路の修正が効くような仕組みを整えて欲しい。</p>	<p>いただいた御意見を踏まえ、生徒の多様なニーズに対応した教育を実現してまいります。</p>
<p>「生徒が自ら学び考え、わかる・できる喜びを実感できるとともに、教職員も生きがいを感じ、自信と誇りや意欲を持って教育活動に当たる学校づくりを進めます。」という部分はとても良いので、ぜひこの考え方を中心にすすめて欲しい。</p>	<p>いただいた御意見を踏まえ、プランを着実に推進してまいります。</p>

<p>特に学校間連携や協働には大いに期待している。その子どもがどのような生育環境を経て高校生になったか、幼稚園・保育園から連続してきちんと引き継げる環境を整えて欲しい。</p>	<p>いただいた御意見については、新プランを推進する際の参考とさせていただきます。</p>
<p>適正配置を検討する際には、県立高校の近隣に私立高校があったとしても、経済的に私立高校は選べない家庭もあることを充分考慮して欲しい。</p>	<p>「教育を受ける機会の確保」の観点から、地理的条件や公共交通機関の状況、地域の抱える状況、学科の配置バランス等を踏まえ、慎重に検討を進めてまいります。</p>
<p>スクール・ミッションの4つの観点到に標榜された「人材」に自らは到達していない・到達できないと考えてしまう生徒はどうしたらいいのか。生きる希望を無くしてしまわないか心配である。</p>	<p>各学校において、生徒の自己肯定感を育み、きめ細かな指導を実践してまいります。</p>
<p>千葉県は、専門高校への進学率が非常に低く、中学校や保護者の理解も早い段階から進路を選択しなくてもよいという考え方がある。 また、理数離れなど、「論理的な思考を重ね、将来の課題解決能力を育み、キャリアの発達」を促す必要性を感じる。</p>	<p>今後もキャリア教育の推進に努めてまいります。</p>
<p>【基本理念】について、PDCAで検証したか。 「ちばの教育の力で、「県民としての誇り」を高める！ことはできたか。 「人間の強み」を伸ばす！ことはできたか。 「世界とつながる人材」を育てる！ことはできたか。 【基本目標】について、PDCAで検証したか。 「1 ちばの教育の力で、志を持ち、未来を切り拓く、ちばの子供を育てる」ことはできたか。 「2 ちばの教育の力で、「自信」と「安心」を育む学校をつくる」ことはできたか。 「3 ちばの教育の力で、家庭と地域の絆きずなを深め、全ての人が活躍できる環境を整える」ことはできたか。 「4 ちばの教育の力で、世界を舞台に活躍する人材を育成し、「楽しい」「喜び」に満ちた豊かな社会を創る」ことはできたか。</p>	<p>第3期千葉県教育振興基本計画については、「教育委員会の事務の点検評価」において、毎年、その進捗状況の評価しております。</p>
<p>「千葉県地方創生総合戦略（平成27年度～令和元年度）」「〔第2期千葉県地方創生総合戦略（令和2年度～令和6年度）骨子案〕、特に」「千葉県における人口の状況と将来展望（人口ビジョン）」との整合性はどうか。</p>	<p>全国的な少子化を背景として、本県において生産年齢人口及び年少人口は中長期的に減少することが見込まれています。本プランにおいても中学校卒業生数の今後の減少を踏まえ、高校再編について検討しております。</p>
<p>令和元年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」の結果をどのように検討し教訓化しているのか、その結果として、今回のプランが策定されているのか。ハッキリしていない。</p>	<p>本プランでは、様々な配慮を必要とする生徒に対する個々に応じたきめ細かな支援の推進について検討することとしております。</p>
<p>「SDGs」という言葉が、見当たらないが、どうなっているのか。SDGsは「17の目標」と「169のターゲット（具体目標）」で構成されているが、これを千葉県の高等学校教育にどのように具体化していくか、プランには全く明記されていない。</p>	<p>本プランは、SDGsの目標4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保」することに資するものと考えております。</p>

「はじめに」9行目 「地域とともに発展する開かれた学校づくり」の「とともに発展する」は削除して、「地域に開かれた学校づくり」、または「地域と連携した学校づくり」と修正してほしい。	いただいた御意見については、新プランを推進する際の参考とさせていただきます。
「はじめに」11行目 「我が国に在籍する外国人…」は「日本で暮らす外国人…」または「日本に在留する外国人…」に修正してほしい。 ＜理由1＞「在籍」は学校の児童生徒について使用する。	御意見を踏まえ、「我が国に居住する外国人の増加等を背景に」と修正いたしました。
「はじめに」22行目 「…検討を始めました。」を「…検討を行ってきました。」に修正してほしい。	御意見も踏まえ、時点修正を行いました。
「はじめに」31行目 「…推進するとともに、高校が小中学校のキャリア教育を支援し、職業系専門学科への理解を深めていくこととしています。」の下線部は削除してほしい。	魅力ある県立高校づくりにおいては、県立高校の、特に職業系専門学校に対する小・中学生やその保護者への理解を深めることは重要であると考えております。
P1 I-1 (1) 計画の趣旨 の枠内の内容（基本理念と基本目標）は高校教育改革の計画には直接関係ないので、削除してほしい。	本プランは、第3期千葉県教育基本計画の基本理念と基本目標を踏まえて策定しております。
P1 8行目 「実施する主な取組」として6点が示されているが、第3期千葉県教育振興基本計画では10点挙げられている。このうち以下の4点が記載されていないのはなぜか。 ○地域学校協働本部の推進 ○「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」の充実 ○地域住民・保護者の県立学校運営への参画の推進 ○コミュニティ・スクールの導入促進	第3期千葉県教育振興基本計画で上げている10点の取組のうち、特に高校改革に関連するものとしてお示していることを踏まえ、本文に「高校改革に特に関連するものとして、」を追記いたしました。
P2 (2) 計画の目標年次 の「令和4年」、「令和13年」は、それぞれ2022（令和4）年、2031（令和13）年と修正してください。以下同様、西暦表記にしてほしい。	御意見を踏まえ、「令和4年度（2022年度）」「令和13年度（2031年度）」と修正いたしました。
P4 (2)-ア 3行目 「…取り組む生徒がいる一方、経済雇用…」の文を二つの文に分け、以下のように修正してほしい。 （修正後）「…取り組む生徒がいる一方、意欲的に取り組めない生徒も多くいます。また、経済雇用…」	御意見を踏まえ、「…取り組む生徒がいる一方、目的意識を持たず意欲的に学習に取り組めない生徒も少なくありません。また、経済雇用…」と修正いたしました。
P4 (2)-ア 8行目 「…幅広い科目を選択できる…」の下線部を「…多様な科目から選択できる」と修正してほしい。	御意見を踏まえ、「…進路希望等に応じた多様な科目選択が可能となる」と修正いたしました。
P4 (2)-イ 9～12行 「令和2年…下回っています。」は削除してほしい。	該当箇所は、県立高等学校卒業後の進路状況を踏まえたキャリア教育の方向性を示すものとして、記載したものです。
P6 (2)-ウ 人口の減少 は 人口の減少と地域の状況、または 人口の減少と多様な地域性と修正してほしい。	「人口の減少」については、全県的な課題であると考えております。
P6 (2)-ウ 6行目「少子化に伴う」、13行目「少子化や」は削除してほしい。	
P8 3-(1) 3つめの○の1～2行目 「…社会的・職業的に自立…」の職業的は経済的と修正し、「…社会的・経済的に自立…」と修正してほしい。	中教審答申においても、社会的・職業的な自立は課題として掲げられているものと認識しております。

<p>P 8 3-(4) 「身近な課題を探究するなど、地域との絆を深め、地域とともに発展する学校」は意味不明である。現行の改革推進プランの「地域の人が集い、地域に愛され、地域とともに歩む学校」のほうが基本的コンセプトとして適切と考える。「地域の人が集い、地域に愛され、地域とともに歩む学校」に修正してほしい。</p>	<p>御意見につきましては、今後、施策を検討していく上での参考とさせていただきます。</p>
<p>P 9 4-(1) 3～4行目 文中の「従来の学校規模にとらわれない大規模な単位制高校の設置」は削除し、「単位制の特色を活かした高校づくり」に修正してほしい。</p>	<p>御意見につきましては、今後、施策を検討していく上での参考とさせていただきます。</p>
<p><b>普通科</b></p>	
<p>中教審答申P52のとおり「(1) 普通科」は「(1) 普通科改革」に変更する。</p>	<p>当冊子の構成上、「〇〇科」という文言で統一しております。</p>
<p>各校の取組を可視化し情報発信を強化するため、魅力ある名称(愛称)を検討する。</p>	<p>いただいた御意見は、今後の高校再編に向けた参考とさせていただきます。</p>
<p>中教審答申の重点項目である「普通科におけるキャリア教育の充実」を掲載しないのですか。</p>	<p>「キャリア教育の充実」は、計画実施上の重点事項としてP10に掲載しております。</p>
<p>学習意欲の向上、自己肯定感の醸成、将来を見通した個別最適な学びを掲載しないのですか。</p>	<p>P 4 (2) 県立高等学校の課題アの部分に生徒の多様なニーズへの対応という形で同趣旨の内容を掲載しております。</p>
<p>中教審答申P53「コーディネーターの配置検討」を載せないのですか。 「連絡調整を行う職員の配置」は「コーディネーターの配置」に変更すべきです。(中教審答申P53)</p>	<p>P 9 4改革の方向性(7)において、コーディネーターの配置について記載しております。</p>
<p>関係機関及び関係団体との、連絡調整を行う職員の配置はとても有効である。教職員の働き方改革を進める上でも、スクールミッションを実現する上でも不可欠であり、配置すべきである。</p>	<p>いただいた御意見を参考に今後の高校再編に生かしてまいります。</p>
<p>「普通科を主とする学科」は「各校が特色化・魅力化を推進する学科例」に変更すべきです。</p>	<p>高等学校設置基準(平成16年文部科学省令第20号)を踏まえ、「普通教育を主とする学科」としています。</p>
<p>次を追加すべきです。 ・学校間で連携し、在籍校にとらわれない幅広い学習の機会を提供します。 ・地域企業等と連携し、生徒のキャリア教育を推進します。 ・著名OBや地域の人々等の力を借り、様々な生き方や体験を学ぶ機会を推進します。</p>	<p>いただいた御意見を参考に今後の高校再編に生かしてまいります。</p>
<p>普通科から多様な学習ニーズに対応できる総合学科への転換は有効である。</p>	<p>御意見を踏まえ、今後の高校再編を進めてまいります。</p>
<p>千葉県の普通科では、コースを設置して普通科の特色づくりを進めてきました。特に、本県において人材不足になっている教員、保育といったコースは、今後も積極的に進めることを要望します。</p>	<p>御意見を踏まえ、今後も、コース設置校の拡充などについて検討してまいります。</p>
<p>教員志望者確保に向けた施策は、別途全県域を対象として実施すべきと考える。</p>	
<p>普通科の特色化、魅力化について、これまでの地域や社会のニーズに対応したコースとして「教員基礎コース」「保育基礎コース」「医療系コース」の設置を高く評価している。次期プランでもより積極的な取組を期待する。</p>	
<p>コースを設置する際は、地域のニーズを把握してほしい。</p>	

<p>教員基礎コースの充実が本県の教員希望者増加につながるとは考えられない。 ぜひ、日本の教育の抱える深刻な問題にも向き合う気概を持った生徒を育ててほしい。</p>	<p>いただいた御意見を参考にしながら今後の高校再編を進めてまいります。</p>
<p>教員免許は大学でしか取得できないのに「教員基礎コース」と称することに違和感がある。 「教員基礎コース」が設置されてから10年近く経過するにも関わらず、教員採用選考志願倍率が全国平均を大きく下回っていることは、コース設置の効果が出ていないと判断せざるを得ない。コースを廃止するか、「教育学部受験対策コース」とすべきではないか。 教員採用選考志願倍率を上昇させることが目的ならば、教員の待遇改善を図るべきであって、このようなコースで「やりがい搾取」を肯定するべきではない。</p>	
<p>コース設置校の拡充だけではなく、広く教育に関する講座を、年間を通じて開設する事業等を推進していくというような文書はどうでしょうか。</p>	
<p>「人材」を「人物・人間・担い手」等に修正すべきです。（同様の趣旨でほか1件）</p>	<p>「人材」の記載については、国や本県の教育振興基本計画等にも同様の趣旨で使われております。</p>
<p>現在進学指導重点校である安房高校は、単位制を導入しているものの、その魅力や特色についての理解が不十分であると思われる。</p>	<p>各校の魅力が小・中学生やその保護者により広く伝わるよう「戦略的な広報」に努めてまいります。</p>
<p>安房高校に特別進学クラスを設置することにより、有名国公立大学や難関私立大学への進学実績向上に向けた特色ある教育を実施してほしい。</p>	<p>いただいた御意見を参考にしながら、今後の高校再編を進めてまいります。</p>
<p><b>理数科</b></p>	
<p>理数教育は今後の国の経済の盛衰を握ります。「全校で理数教育の充実に努める」旨の観点で、詳しく施策を記載すべきです。</p>	<p>御意見を参考にしながら、今後の理数教育の充実に努めてまいります。</p>
<p>「理数科」を「理数情報科」とし、各地域の情報教育の拠点としてはどうですか。</p>	
<p><b>体育科、芸術科</b></p>	
<p>他の科と比較して「社会の役に立っていない」かのような書きぶりになっているのが気になる。もう少し芸術が社会の中で重要な役割を果たしている事を語って欲しい。</p>	<p>御意見を踏まえ、以下の文章を追記いたしました。 【体育科】 これらの学校での教育内容の充実に図り、引き続き、本県スポーツの振興や県民の健康の保持・増進に貢献できる人材を育成していきます。 【芸術科】 これらの学科や系列、コースを設置している高校が中心となり、教育内容や情報発信の充実に図るとともに、将来の本県芸術文化の振興や、創造的かつ持続可能な社会の発展に貢献できる人材を育成していきます。</p>
<p><b>農業科</b></p>	
<p>前プランの専門系学科・コースの「具体計画の方向性」は実現できていません。なぜ前プラン「具体計画の方向性」の達成度の評価をしなかったのですか。</p>	<p>具体計画の方向につきましては、生徒や社会のニーズに応じて、実施プログラムとして実現してまいりました。また、達成度については再編校の評価をとおして検証してまいります。</p>

なぜ「在籍校・在籍学科を越えた、地域での幅広い学習機会の実現」を載せないのですか。	P10 5計画実施上の重点事項(3)に記載しております。
なぜ中教審答申の「専門学科改革」の一部しか載せないのですか。	中央教育審議会答申のうち、特に関連性の高いと思われる事項について記載しております。
前プランの「ネットワークを構築し(中略)県全体の農業教育の底上げを図ります」「担い手育成」「6次産業化」の進捗状況を記載してください。	P17に記載したとおり、農業関係高校人材育成組織「アグリサポーターズちば」を設置し、農業教育の充実に向けた活動を推進しております。
「6次産業化」は大変重要です。なぜ他の職業学科、特に要の商業科に再掲しないのですか。	貴重な御意見として承り、今後の高校再編に向けた参考とさせていただきます。
学習指導要領に倣った表現なのだろうが、「農業の見方」という表現が日本語として適切かどうか疑問に感じる。「○○の見方・考え方」という表現は一般に通用するものとは思えない。	御指摘の記載については、高等学校学習指導要領を引用したものです。
6次産業化は足し算(1+2+3)ではなくて掛け算(1×2×3)だと認識していたが、どちらが正しいのか?(同様の趣旨で他1件)	御意見を踏まえ、修正いたしました。
市場との関連を取り入れていただき、第一次産業の重要性をしっかりと受け止めて勉学に励んでいただく、それには行政との協力も必要と感じます。	農業関係高校人材育成組織「アグリサポーターズちば」を通じて、農業関係の行政機関との連携を進めてまいります。
「・・・教育の推進に留意し、・・・」という弱い表現を「・・・教育を積極的に推進し、・・・」と変更する。	御意見の主旨を踏まえ、「教育を具現化するため」と修正いたしました。
現在の学校農場における老朽化した施設・設備の更新を積極的に行い、魅力ある学校農場にしていくという強い意志を示す。	御意見を参考にしながら、生徒が生き生きと学ぶことができる教育環境の整備を進めてまいります。
「ペット産業が拡大する中、幅広い動物の飼育について学べる学科への再構成など、時代のニーズを踏まえた新たなコースの設置や学びの導入を検討します。」について「農業教育に関して時代のニーズを踏まえた学び内容や新たなコースを検討します。」とし、また、文中の「担い手」の表現を「農業経営者」としてはどうか。	御意見を踏まえ、「例えば、近年の農業構造の変化に対応できる農業経営者の育成や、幅広い動物の飼育に関する学びなど、時代のニーズを踏まえた新たなコース設置や学びの導入を検討します。」と修正いたしました。
「農業経営者」育成の推進について、触れていただきたい。 ＜理由＞ Society5.0の世の中にあっても、農業は国の基(もと)と考えます。SDGs、食料安全保障の観点からも、また世界的な視野をもった、マーケティングにも明るい「農業経営者」の育成こそ、日本の将来を明るくするものと考えます。単に「人材」「担い手」「就農者」ではなく、「農業経営者」育成の推進の文言を入れていただきたい。	
ペット産業に対応した学科の設置については難しい面があると思います。 ＜理由＞学習指導要領との整合性が難しく感じます。また、当該学科を卒業した生徒の進路の受け皿についても、課題があります。	
キャリア教育・食育・生涯学習の視点で農業教育を捉え、地域のセンター的役割を担うことを明記する。	御意見を踏まえ、「地域のキャリア教育・食育・生涯学習の拠点となり」と修正いたしました。
農業関係高校人材育成組織「アグリサポーターズちば」について、更なる内容の充実を期待します。	いただいた御意見を参考にしながら今後の高校再編を進めてまいります。

工業科	
工業教育の拠点校が工業教育の推進に果たす役割とはなにか。	工業教育の拠点校では、最先端の工業教育の手法について、研究・開発を一層推進するとともに、県全体で共有する仕組みを構築する役割を担っております。
なぜ工業科では、定員が充足されていないことが記述されているのか。	御指摘の記載については、工業科の現状を示す情報の一つとしてお示ししております。
定員が充足されていない現状に対し、県がどのように方策をとるのか、県が何を課題と考えるのかを書くべきではないか。	工業教育の理解を深めるため、工業教育を中心として、小・中学校のキャリア教育を支援したり、積極的広報を展開することとしております。
前プランの各学科で掲げた「コンソーシアム」が十分に機能していない理由を分析し、反省に立って新プランの記述を考えるべきではないか。	時代の変化に対応することができるよう、コンソーシアムの一層の充実を図ってまいります。
工業科におけるSTEAM教育（STEM教育）の推進について、触れてはどうか。	STEAM教育については、令和3年1月の中央教育審議会（答申）も踏まえ、高等学校における総合的な探究の時間を中心として取り組むことが望ましいと考えております。
前プランの「積極的かつ効果的な広報活動に取り組み(略)」の進捗状況を記載してください。	前プランの進捗状況につきましては、再編の実施年度から3年が経過し、初めての卒業生が輩出される年に合わせて各種調査を行い、外部からの意見聴取を実施しながら評価しております。
商業科	
前プランの「ICTの急速な進展等に対応した教育内容の充実」「地域産業等との連携」「他学科との連携」の進捗状況を記載してください。	いただいた御意見は、県立学校改革推進プランに係る評価（平成30年度再編実施分）により、前（現行）プランの実施状況及び成果や課題について取りまとめ、県教育委員会HPで公表しております。
商業科は、伝統の学びの充実に加え、「人工知能、インターネット、ビッグデータなど激変する社会・技術・産業界に対応する学びに変化する」などと記載すべきです。	具体計画の方向の3項目目において、御意見と同趣旨の内容についてお示ししております。
具体計画の方向の1つ目に大学や専門学校等の連携をあげていますが、この方向には賛同します。	御意見を踏まえ、大学や専門学校等との連携を推進してまいります。
この連携を実現するためには大学や専門学校と距離が近い立地環境を持つ学校が有効となります。そこで、大学や専門学校が多く立地している都市部に商業科を設置し連携モデル校として指定することで、具体計画の実現性は高まることから都市部に商業科を設置することを要望します。	いただいた御意見については、既設の商業科拠点校の取組を充実させるとともに、具体計画の方向の2項目目の実施状況及び中学生や保護者のニーズや既設の商業科設置校の募集状況を踏まえながら、検討してまいります。
具体計画の方向の2つ目に「普通科において、商業に関する学びの導入を検討します」をあげていますが、この場合、コースや2単位程度の学びの設置を想定していると思われます。コースや学びの設置では、教員の増員配置の措置がないため、学校の魅力づくりに大きな効果が期待できません。そこで、進路多様校に総合学科を設置して、農工商といった職業系の学びを導入することの検討を要望します。	
商業科では、高校卒業後に大学や専門学校に進学する生徒が増える中、進学後にさらに高度な領域を学ぶためにも、「理論的な学び」の姿勢が大切です。また、「深い学び・高度な知識や技能の習得」には、「理論的な学び」がベースとなります。この点から、実践的・体験的な学習とともに、「理論的な学び」の明記を検討することをお願いします。	いただいた御意見については、令和4年度から段階的に実施される新学習指導要領や、令和3年1月に示された中央教育審議会（答申）を踏まえ、全ての高校の魅力化と学びの改革として捉えるものであり、本プランの基本的コンセプト及び改革の方向性において同趣旨の内容をお示ししております。

簿記は、商業科の中心的な学習で取得できる資格であり、かつ一般的に就職活動の際最も役に立つ資格といわれているため、商業科における資格取得に関し、簿記も入れていただきたい。	簿記については、商業科における学習において、基礎・基本の充実に資するものと考えております。
具体計画の4つ目に「他の職業系専門学科との連携を推進し、互いに専門性を生かし合い、企画、生産から加工・流通・販売まで協働的な学習を推進します。」とあるが、商業科を中心とした職業系専門学科間の連携を実施可能なものにするため、他の職業系専門学科の具体計画の方向にも、同様の内容を示してほしい。	学科間連携につきましては、農業科や総合技術高校の項目において同様の主旨の内容をお示ししております。
<b>水産科</b>	
前プランの「水産業及び海洋関係産業の発展を支える人材を育成」の進捗業況はどうか。	前プランの進捗状況につきましては、再編の実施年度から3年が経過し、初めての卒業生が輩出される年に合わせて各種調査を行い、外部からの意見聴取を実施しながら評価しております。
柔軟な生徒募集は、水産科の志願倍率向上に寄与すると思う。ぜひとも進め方がよいと思います。	御意見を踏まえ、県内全域や全国からの生徒の受入れも含めた柔軟な生徒募集について検討してまいります。
海洋系の学科へ進学を希望する県北や県外の生徒が、館山総合高校海洋科に通えるよう、受験条件の緩和や寮の整備等を実施してほしい。	
地域の声も重要であり、連携の強化は大事だと考える。「地元漁業協同組合・企業、大学・研究機関、行政機関等との連携を強化」とあるが、地域（水産関係だけでなく、地域住民など）との連携も強化してほしい。	御意見も踏まえ、高校と地域、企業、高等教育機関等との連携を推進してまいります。
地球温暖化により、海洋環境も大きく変化している。その中で、陸上での栽培漁業も今後増えていくことが予想される。実際、木更津市で鮭の養殖が行われている。「幅広い水産教育の充実」は、大事だと考えます。	今後の海洋環境や水産関連産業の変化にも対応できるよう、海洋関連産業全般を捉えた幅広い水産教育の充実を図ってまいります。
「海技従事者の養成」は、是非進めてほしい。	本県の基幹産業を支える水産業や海運業に必要な海技従事者の養成に向け、実習船の活用と専攻科との連携を強化してまいります。
「実習船の活用」について、実習船の無い海洋教育はあり得ない。是非、実習船を活用した学びは続けてほしい。	
指導する先生の質の向上と、先生の人数の確保が大事ではないかと考えます。	御意見を十分に踏まえ、水産教育の推進を図ってまいります。
「小・中学校等と相互に交流」について、早い時期から、水産について触れたり、学んだりすることは必要だと思います。是非、小・中学校の子供たちと高校生が交流する機会を増やしてほしい。	水産教育への理解を深めるために、小・中学校等と相互に交流し、海洋に対する興味・関心を高めるなど、積極的な広報を展開してまいります。
中学校の先生にも、高校について学ぶ場を設けてほしい。	
生徒が海洋について総合的に学んだり、進学して更に専門性を深めるなど、多様な希望に応えるため、県内2校に設置されている海洋科を統合し、多様で選択可能な科目を設置するなど、全国に誇れる海洋科単独の高校を県央部へ設置することを要望します。	海洋科単独校の設置も含めた、県内各地域における今後の県立高校の在り方については、地域協議会を設置し、幅広い視点から意見を伺いながら、慎重に検討してまいります。
海洋教育の重要性に鑑み、早期に既存の施設を活用し、全国募集を検討してほしい。	御意見を踏まえ、県内全域や全国からの生徒の受入れも含めた柔軟な生徒募集について検討してまいります。
千葉県でも同様に全国から生徒を募集すべきではないか。子供たちの学びたいという意欲を大切にしてほしい。	

<b>福祉科</b>	
既に実績を上げている高校もあると思うが、現状では収入という点で必ずしも十分な労働対価を得ているとは言えない可能性の高い福祉系の職業選択につながるコース、学科の増設は避けたほうがよい。	福祉系分野の担い手不足は深刻であることから、待遇面の改善を要望しつつ、担い手の育成に努めてまいります。
<b>情報科</b>	
インターネットから必要な情報を集め本などの情報と比較分析し情報を取捨選択する力などは、これからの時代を生きる全生徒必須の情報技術です。全校全生徒の情報教育推進計画策定を記載すべきではないか。	御意見を参考にしながら、今後の情報科教育の充実に努めてまいります。
現在全国的に不足しているIT人材を地域で育成し、輩出するための教育環境を整えてほしい。	生徒の志願状況や既に情報科を設置した2校の実態を踏まえ、必要に応じて、情報に関する新たな学科、コースの設置等について検討してまいります。
<b>家庭科、看護科</b>	
「資質」は生まれ持った性質であり、あとから育成はできないと思うので、書き方を変更すべき。	御指摘の記載については、高等学校学習指導要領を引用したものです。
「(7)家庭科、看護科」の項について、学習指導要領の各科目の「目標」の表現に倣った記述をしているのだろうが、いくら専門学科としての家庭科だとしても、説明の冒頭にある「家庭科は、家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ」の表現からは、家庭科までもが経済振興の歯車の1つになってしまったのかという残念な印象を受けた。経済活動とは直接関係のない家庭科の専門的教育もあるのではないか。	御意見を参考にしながら、今後の家庭科教育の充実に努めてまいります。
<b>総合学科</b>	
総合学科の良さが中学生やその保護者、中学校に十分伝わっているか不明であるので、そのメリットを、高校のみならず、教育委員会からも中学校や保護者に積極的に発信してほしい。	御意見を踏まえ、中学校やその保護者などに対して総合学科の魅力を効果的に発信してまいります。
高校入学時にはなかなか将来の職業までを見通した展望が持てないことから専門学科離れと普通科への偏重が進んでいるのだと考える。総合学科の仕組みを活用した専門学科の学びのニーズに応えるような高校の設置を期待する。専門学科レベルの学びを保証するとすれば必要な施設・設備のことを考慮すると、複数のキャンパスを持つ大規模な高校の設置も視野に入れる必要があると思う。	御意見を十分に踏まえ、魅力ある県立高校づくりを進めてまいります。
<b>単位制高校</b>	
県有施設の「長寿命化計画」は待ち期間が長く、順番を待っている間の高校の生徒は見捨てるといえることですか。詳細にお教えてください。	御意見を参考にしながら、教育環境の整備に努めてまいります。
限られた財源の中、今存在する高校の環境整備、学びの改革実現を優先すべきではないですか。	
大規模単位制高校とは、第2の幕張総合高校ですか。なぜこの学校が必要かを記載してください。	多様な選択科目の設定により、進路希望や興味・関心に応じた学習が可能となる単位制高校をより大規模にすることで、生徒の多様な学習ニーズに更に応えることが可能になると考えております。
幕張総合高校の総経費（幕張3校の解体費を含む）は、いくらかかったのですか。	
なぜ大規模単位制高校は、適正規模の上限である1学年8学級を超えてもよいのですか。	

<p>【具体計画の方向】に「新たに大規模単位制高校の設置について検討します」とあるが、「既存の学校の統合等により新たに大規模単位制高校の設置について検討します」と下線部を加える。</p>	<p>御意見を参考にしながら、単位制高校の新たな設置について検討してまいります。</p>
<p>大規模単位制高校の設置は活力があり特色ある学校づくりの上でよいと思う。幕張総合高校の設置がそうであったように、校舎や施設設備を整え魅力あるものとしたほうがよい。（同様の趣旨でほか1件）</p>	
<p>進学指導重点校に単位制を導入することは、生徒の進路希望や興味関心にこたえられるため好ましい。</p>	<p>多様な選択科目の設定により、進路希望や興味・関心に応じた学習が可能となる単位制高校について更なる充実を図ってまいります。</p>
<p><b>中高一貫教育校</b></p>	
<p>現行の中高一貫教育校のあり方や新設計画などを具体的に記していただきたい。</p>	<p>中高一貫教育校につきましては、これまでの成果と課題を検証していくとともに、国の施策や他県の状況を注視しつつ、県内の地域の状況も踏まえ、引き続き研究してまいります。</p>
<p>今の中高一貫教育校では、学力上位層の生徒のみに利点があることから、その設置は慎重にあるべきであり、特に郡部では地元の公立中学校の死活する可能性があることから設置しないように強く要望する。</p>	
<p>中高一貫教育校については地域のニーズ等との慎重な検討が必要だと思う。特に、連携型中高一貫教育校については、これまでの成果と課題を踏まえ、存続を含めて検討が必要だと考える。</p>	
<p>現在県北のみにある中高一貫校を安房地域に設置する可能性についても検討してほしい。</p>	
<p>地元との連携を意識した高校教育を考えると、中学と高校の一貫教育が望ましい。いくつかの中学校からは高校に入学できるというような中高一貫教育校の設置を検討してほしい。</p>	
<p>「教育立県千葉の視点に立って、県立中等教育学校（6年制）の配置を検討していきます」を挿入してもらいたい。</p>	
<p><b>観光・環境・防災に関する教育</b></p>	
<p>「学びの成果について、全県立高校において共有し、積極的に活用する仕組みについて研究します」とあるが、「研究」は消極的である。「実施」と記載しないのはなぜか。</p>	<p>学びの成果を共有、活用する各県立高校の独自性を尊重した仕組みを構築する必要性に鑑み、「研究」と記載しております。</p>
<p>「自助」として自分の命を守り、「共助」として地域住民との間で助け合うことが非常に大事になる。「地域との連携を更に深める体制づくり」としては、自治会や町内会への参加など、地域活動に貢献することが明るい未来に繋がり、「共助」の大切さを知る一番の機会となる。</p>	<p>御意見を踏まえ、防災教育の更なる推進に取り組んでまいります。</p>
<p><b>地域連携アクティブスクール</b></p>	
<p>具体計画の方向（4項目目） 「既設の4校に加え、更に4校程度を地域連携アクティブスクールに変換します」としてはどうか。</p>	<p>御指摘の記載につきましては、いただいた御意見と主旨が変わらないことから、案のとおりとさせていただきます。</p>
<p>具体計画の方向（2項目目） 学びのセーフティネットの役割を担うならば、相応の支援体制が必要である。既存の4校が生徒に寄り添った充実した指導ができるよう、教育委員会の支援を得られるようにしてほしい。</p>	<p>御意見を踏まえ、教育相談体制の充実を図ってまいります。</p>

<p>具体計画の方向（４項目目） 自立した社会人を育てる地域連携アクティブスクールの設置は、人口減少に向かう社会において大変大きな意義を持つ。一人前の社会人、言い換えれば一人前の納税者を育てる取組を、実効性のあるものにするため、既設校も含め十分な支援が必要と考える。</p>	<p>御意見を踏まえ、自立した社会人の育成に向けたきめ細かな指導を、より一層実践してまいります。</p>
<p>10月に公表された令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導の調査によると、不登校生徒は約5,160人とあり、中学校で思うように能力を発揮できない生徒は多くいるにもかかわらず、現在のところ地域連携アクティブスクールは4校しか設置されていない。中学校ではできなかったが、高校で頑張ろうとする生徒を救うためにも今後もさらなる設置を強く望む。</p>	<p>御意見や地域バランス、生徒や保護者のニーズを踏まえ、新たな設置について検討してまいります。</p>
<p>地域連携アクティブスクールは、学び直しの機会を保障する仕組みとして絶対に必要な学校だと考える。各学区への設置を期待する。</p>	
<p>アクティブスクールを選ぶ子どもは、自立は目指しても期待に応えることまで背負う必要はない。「地域の期待に応える」を削除して欲しい。</p>	<p>御意見を踏まえ、「地域の期待に応える」から「地域とともに歩む」へと修正いたしました。</p>
<p><b>定時制高校</b></p>	
<p>なぜ中教審答申P55「専門スタッフの充実と関係機関との連携強化」を載せないのか。</p>	<p>御意見を参考にしながら、専門スタッフによる支援体制の充実や就労支援機関との連携を進めてまいります。</p>
<p>具体計画の方向（3項目目） 定時制設置の経緯はあると思うが、時代の推移とともに定時制の果たす役割が変わってきており、夜間に限らない新しい形態の定時制高校があったほうが、志願者のニーズにこたえられる。是非とも進めたほうがよい。</p>	<p>御意見を踏まえ、多様な生活スタイルに対応した弾力的な学びの提供について検討してまいります。</p>
<p>【具体計画の方向性】の項目に追加 ○定時制及び三部定時夜間部の生徒の生命を支えるため、自校式給食の復活をする。（同様の趣旨ではか2件）</p>	<p>夜間定時制高校においては、現在、希望すれば高校生の栄養面に配慮した食事を注文できるような体制を整えております。</p>
<p>日本語を母語としないが学習能力の高い生徒が、選択できる高校の幅を拡げる取り組みを早急にしていただきたい。</p>	<p>新プランにおいては、様々な配慮を必要とする生徒に対する個々に応じたきめ細かな支援を推進してまいります。</p>
<p>P34 Ⅲ-1【具体計画の方向】の下から二つ目の○「定時制高校については」の後に「生徒の学びを保障し」を追加し、また、「多様な」、「十分」を追加し、次のように修正してほしい。 「定時制高校については、生徒の学びを保障し、生徒・保護者及び地域の多様なニーズ、地域バランス等を十分考慮し、配置の在り方について検討します。」</p>	<p>御意見を踏まえ、「定時制高校については、学びの機会を保障するとともに、生徒・保護者及び地域のニーズ、地域バランス等を考慮し、配置の在り方について検討します。」と修正いたしました。</p>
<p><b>通信制高校</b></p>	
<p>千葉大宮高校のスクーリングが館山総合高校定時制でできる通信制協力校について、周知先を行政の福祉部局や支援団体、福祉団体へ広げ、県立通信制という選択肢を必要な世帯に届けられるように効果的な周知を図ってほしい。</p>	<p>中学校及び市町教育委員会へ直接訪問し、制度の説明や千葉大宮高校に在籍している生徒の学習状況について情報交換を行うなど、引き続き、通信制協力校制度の周知を図ってまいります。</p>
<p>具体計画の方向、2つ目の○の内容を評価します。千葉大宮高校の教職員が館山総合高校に出張して行う方式は取らないということ併せて確認してください。</p>	<p>御意見も踏まえ、通信制協力校制度の更なる充実を進めてまいります。</p>

県立高校の適正規模・適正配置	
地域協議会を設置し、幅広い視点から意見を伺い、十分に議論を重ね、検討いただきたい。 (同様の趣旨でほか7件)	<p>県立高校の適正規模・適正配置については、生徒や保護者のニーズを踏まえ、学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会などにおいて意見を伺うとともに、地元自治体と充分協議するなど、慎重に検討してまいります。</p> <p>また、「教育を受ける機会の確保」の観点から、地理的条件や公共交通機関の状況、学科の配置バランス等を踏まえ、生徒にとってより良い高校の在り方について、慎重に検討してまいります。</p> <p>なお、県立高校の学級編制については、「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」を踏まえ、一学級当たり40人を標準としております。</p> <p>地域、企業、高等教育機関などが相互に連携・協働しながら、県立高校の魅力化・特色化を進めてまいります。</p>
適正規模、適正配置については慎重に議論を重ねていく必要があるべき。しっかりとした説明を加え、理解を頂くことが重要である。	
生徒、保護者、教職員、そして、生徒や学校を支える地域社会の人々にとっても魅力ある高校づくりを目指すべきである。	
過疎地に住み、アルバイトで家計を助ける生徒や、家事を担う生徒、家族を介護する生徒にとって、自転車を通える地元高校は不可欠と思うが、配慮をしないのか。(同様の趣旨でほか1件)	
1学級、40名定員にこだわる必要はなく、「過疎地特例」として30名定員を実現して頂きたい。 全体の均衡ある発展の観点からすれば、過疎地だから県立高校の統合ではなく、過疎自治体の存続・活性化の為に、過疎地の特性に十分な配慮をした「県立高校の改革」を推進して頂きたい。 (同様の趣旨でほか5件)	
適正規模範囲内の高校(4、5、6学級)の統合を発表しその高校の校舎を使用しなくしたケースは何件あるか。	
適正規模範囲内の高校の統合を発表し、その高校の校舎を使用しなくする乱暴な統合発表はしないように、詳しく記載すべきである。	
高校と地域が共に子供達のために一緒になって努力する方向にかじをきってもらい、それを千葉県が支援するという形に政策を変えるべきである。(同様の趣旨でほか1件)	
千葉県と高校と地域が一体となり、郡部の活性化を図れるような政策に切り替えてほしい。	
地域社会との協働による魅力化ある高校づくりでなければならない。(同様の趣旨でほか1件)	
地域の歴史、伝統、文化といった地域の魅力や教育資源を生かす地域社会に開かれた高校づくりを行うべきである。(同様の趣旨でほか2件)	
郡部の全高校に特殊な役割を与え、県内外から下宿してでも学びたいような高校の設置を希望する。そのためにも、郡部の地域特性に合わせて「すべての」普通科に振り分けることを検討してほしい。	新プランにおいては、郡部の高校だけではなく、全ての高校が魅力化・特色化を進めることができるよう、特色ある学科・コースの導入等について検討してまいります。
一定規模の生徒集団を維持し、教育財産を集約して教育環境を整える学校統合は、人口減少が見込まれる本県では積極的に進めるべき教育施策である。(同様の趣旨でほか1件)	多くの友人や教職員との触れ合い、切磋琢磨する機会を確保するとともに、教育課程の柔軟な編成や活力ある教育活動が展開できるよう、学校の規模・配置の適正化を推進してまいります。
【具体計画の方向】に「郡部では、・・・統合しない場合もあります」とあるが、下線部を「更なる規模の縮小や分校とすることも検討します」とする。	御意見も参考にしながら、県立高校の適正規模・適正配置について検討してまいります。
郡部での適正規模を原則1学年4～8学級としているが、2～8学級、せめて3～8学級としていただきたい。(同様の趣旨でほか1件)	御意見も参考にしながら、県立高校の適正規模・適正配置について検討してまいります。

4クラスを下回ると職員数減少に伴い、学校運営に支障をきたす。	御意見も参考にしながら、県立高校の適正規模・適正配置について検討してまいります。
魅力ある学校づくり推進に伴う、職員の「地域振興枠」制度（加配措置）を導入し、郡部の学校運営に柔軟な対応を行っていきますという文言を入れることで郡部の魅力ある学校づくりの活性化につながるのではないかと。	御意見も参考にしながら、県立高校の魅力化・特色化を進めてまいります。
ちょっときつちりしすぎではないか。これでは、進学校の入学基準は60点、定員枠は校舎つくったときの見込み。	貴重な御意見として承ります。
適正規模、適正配置などというレベルでだけ議論するのではなく、地域の特性を活かした県全体の均衡ある発展という視点から検討すべきである。（同様の趣旨でほか1件）	県立高校の適正規模・適正配置については、生徒や保護者のニーズを踏まえ、学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会などにおいて意見を伺うとともに、地元自治体と充分協議するなど、慎重に検討してまいります。
私学と募集定員の割り振りについて慎重な協議をしてほしい。近年、市立も含めて公立は募集定員を厳しく遵守している。その一方、私立高校が募集定員を大きく超えて生徒を入学させている状況がある。この点について公私の協議の場でしっかりと調整してほしい。	いただいた御意見を十分に踏まえ、引き続き、公私協調のもと、十分な協議を進めてまいります。
都市部の県立高校の定員を統合等も視野に入れながら削減していくことが必要だと考える。	県立高校の適正規模・適正配置については、生徒や保護者のニーズを踏まえ、学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会などにおいて意見を伺うとともに、地元自治体と充分協議するなど、慎重に検討してまいります。
情報発信が大切であり、「戦略的な広報」も絶対不可欠である。中学校卒業者が減少する中、県立学校の適正配置も今後必要だと思う。生徒が減少するだけの統合ではなく、統合された学校の利点も生かすプラスのイメージを持ってプランの推進をしてほしい。	御意見を十分に踏まえ、新プランの施策を進めてまいります。
「10組程度の統合を見込んでいますが」を削除するべきである。	中学校卒業者が減少する中、活力ある教育活動を維持するためには、10組程度の統合が必要であると見込んでおります。
都市部と郡部とでは教育を受ける権利に大きな差が生じているという認識（「県立高等学校の課題」本文）に立つならば、これ以上その差を拡大させてはならない。今後、実施プログラム策定・実施にあたっては、その点を充分に考慮するべきである。	御意見を十分に踏まえながら、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。
私学の応募人数・スクールバス配置と県立高校の浮沈の関係について、検討していないのは何故か。	御意見も参考にしながら、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。
「県立高校の適正規模の最適化を図り、併せて学校及び学科の適正な配置」を、「県立高校の規模や配置の適正化」と修正して欲しい。	御意見を踏まえ、「県立高校の規模の適正化を図り、併せて学校及び学科の適正な配置を行います。」と修正いたしました。
「1学年」を「1学級40人換算で1学年」に変更して欲しい。	県立高校における40人未満の学級編制基準については、国の動向を注視してまいります。
他県で実施されている40人未満の学級編成を参考にしつつ、学級定員を40名から35人学級へ、さらに30人学級へと適正な学級定員を目指して欲しい。（同様の趣旨でほか2件）	
学級規模については、35人学級で2クラスなど小規模校を可能とすべきである。その際には郡部小規模校間での連携も必要である。	

<p>下総高校についてはキャリア教育を行える学校であり、職業観をもって高校生活を送ろうとする生徒達の大切な選択肢であるため統合対象にはするべきではないと考える。 (同様の趣旨でほか1件)</p>	<p>下総高校も含めた香取地域の県立高校の在り方については、地域協議会を設けるなど、地域の方々からの意見もいただきながら、慎重に検討してまいります。</p>
<p>下総高校、特に自動車科は地域や企業より必要とされている学校と考える。 (同様の趣旨でほか2件)</p>	
<p>下総高校は統合の対象にすべきではないと考える。 (同様の趣旨でほか11件)</p>	
<p>下総高校卒業生として、下総高校の存続を強く希望する。</p>	
<p>下総高等学校は現在1学年3学級編成だが、「農業」「工業」「商業」の専門学科コースを設置しているという特色がある。地域でなくてはならない学校だと思うので、存続させてほしい。 (同様の趣旨でほか8件)</p>	
<p>下総高校が理想とする現在の定員数、1年から3年生までの学科別の数字を示して欲しい。</p>	
<p>案には「懇談会でいただいた意見を踏まえる」とある。副座長意見のほか「1市町1校の場合の特段の配慮」等についても、策定懇談会での委員間の活発な意見交換をお願いする。</p>	<p>いただいた御意見も参考にしながら、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。</p>
<p>「多くの友人や教職員との触れ合いや切磋琢磨～」部分の「友人」は、「同級生・仲間」等に修正するべきである。あるいは、この部分そのものを「様々な人々との出会いや学びの機会」とするのも良いと思われる。</p>	<p>いただいた御意見については、新プランを推進する際の参考とさせていただきます。</p>
<p>子供を含む若い世代がこの地域で「学びたい」「生きたい」「子供を育てたい」という魅力ある高校づくりを推進すべきである。</p>	<p>御意見を踏まえ、新プランの施策を進め、県立高校の魅力化・特色化を進めてまいります。</p>
<p><b>全体</b></p>	
<p>前プランの「改革の方向性、重点項目」、学科別の「具体計画の方向性」が実現できなかった理由は、「改革の方向性」等を実現するための施策群の欠如(学科等の再編を除く)と、評価委員会の未設置によりPDCAサイクルが機能しなかったためと考えるがどうか。</p>	<p>前プランの評価につきましては、再編の実施年度から3年が経過し、初めての卒業生が輩出される年に合わせて各種調査を行い、外部からの意見聴取を実施しながら行っております。</p>
<p>前々回プラン高校再編の評価は評価委員会が行った。前プランは評価委員会がなく、教育委員会の内部評価も実施プログラムに記載されている学科・コース設置など高校再編のみの評価だ。他県は「改革の方向性」全項目について毎年評価している。この違いはなぜか。</p>	
<p>新プランでは、「改革の方向性」等を着実に実現するため、他県のように、副座長意見の主要施策群を掲載し、その進捗状況を確認する評価委員会も設置し、毎年「改革の方向性」等の進捗状況の評価し改善を続けるPDCAサイクルを回すべきと思うが、どうか。</p>	<p>新プランの評価については、いただいた御意見も踏まえ、適切に行ってまいります。</p>

<p>副座長意見の「教育委員会の学校への指導支援、財政支援、人事支援、事務室の改革、環境整備」は、東京都のプランでは次の10項目となる。区分はともなくぜひ掲載してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的自立に必要な「知」「徳」「体」の育成</li> <li>・グローバル人材の育成</li> <li>・社会的・職業的自立意識の醸成</li> <li>・高校における特別支援教育の推進</li> <li>・組織的な学校経営の強化</li> <li>・教員の質・能力の向上</li> <li>・安全で環境に優しい施設設備</li> <li>・就学機会の適正な確保</li> <li>・社会の変化に対応した入学者選抜の改善</li> <li>・課題を抱える生徒の自立に向けた支援の充実</li> </ul>	<p>いただいた御意見については、新プランを推進する際の参考とさせていただきます。</p>
<p>なぜパブリックコメントについて市町村長あて通知しないのか。</p>	<p>「ちばづくり県民コメント制度（パブリックコメント）に関する指針」に基づき、適切に実施しております。</p>
<p>本計画書は、教育立県として今後必要とされる教育施策が縷々提示されているが、“検討”“研究”といった表現が多く、具体性に欠けており将来像がイメージできない。</p>	<p>本プランに基づく具体的な実施内容については、今後策定する実施プログラムにおいて示してまいります。</p>
<p>公教育の片翼を担う私立学校の視点の欠如が甚だしい。特に、“戦略的”な広報・生徒募集などは、公立王国千葉の足場固めとも捉えることができる。公費を後ろ盾とする公立学校が、今後少子化で経営が逼迫する私立学校とどのように共生するのか。具体的に示していただきたい。</p>	<p>「戦略的な広報」とは、情報を届けたい相手に、届けたい内容を確実に伝えるような効果的な広報を行うものと考えております。今後の中学校卒業生数の減少等を踏まえ、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。</p>
<p>近年、郡部在住者が第9学区から第1学区、第8学区から第9学区へ進学するなど、都市部の高校へ進学することが増えている。このままでは、地域の若年層の流出が助長され、地方の人口減少が加速してしまう恐れがある。子どもたちが地域に留まれるような、偏差値が高く、都市部の学校とも戦える学校を整備することを期待する。</p>	<p>人口減少が教育の地盤沈下を引き起こさないよう、県立高校の魅力化・特色化を進めてまいります。</p>
<p>全般的に、今後の学校運営に合致したプランである。</p>	<p>各県立高校の魅力化・特色化につながるような学校運営を推進してまいります。</p>
<p>産業構造や社会構造が大きく変わった今日、戦後まもなく基礎が作られた高校教育では網羅しきれない状況がたくさん発生している。その部分を、どこが、誰が、どのような形で支えていくのか。おそらく正解のない問いに、今回の改革推進プランは、「教育が夢と理想を掲げないで誰か明るい未来を語るのか！」と叫んでいるような印象を受ける。その意味では、とても明るく、希望を持って未来を語り合えるプランだと思える。その点は、高く評価すべきである。</p>	<p>今後も、子どもたちの明るい未来に繋がるよう、県立高校の魅力化・特色化を進めてまいります。</p>
<p>学校の情報発信が極端に不足している。また、知名度を上げるための戦略戦術が欠けている。</p>	<p>本プランでは、戦略的な広報を計画実施上の重点事項に掲げ、効果的な情報発信に努めることとしております。</p>

<p>時代の変化が速いので、マスタープラン計画を早期に策定してほしい。</p>	<p>本プランについては、具体計画となる実施プログラムを策定し、推進することとしています。</p>
<p>県立高校では、教員の定期異動等により、各校のスクール・ポリシーに基づいた教育の持続可能性が低下する恐れがあるとともに、地域や地元自治体との連携が求められていることから、私立高校並みに熱意と郷土愛を持つ教員の育成に努めるとともに、校長以下、中長期的スパンでの同一校での生徒指導及び学校運営の目標値を定め、実践してほしい。</p>	<p>いただいた御意見については、新プランを推進する際の参考とさせていただきます。</p>
<p>日本語指導が必要だが学習能力は高い生徒はどのような学校を選択できるのか示してほしい。</p>	<p>新プランにおいては、様々な配慮を必要とする生徒に対し、個々に応じたきめ細かな支援を推進することとしております。</p>
<p>本来なら高校卒業後に就職すべき生徒と仕事をきちんとマッチングできていないのか、それともそもそも就職を志す生徒が少ないのかはっきり示してほしい。</p>	<p>御意見を踏まえ、今後の社会の変化に対応した人材の育成を見据えた実践的なキャリア教育を推進してまいります。</p>
<p>高校生が「担い手」「人材」として育成されることを前提とされている表現に違和感がある。高校での学びは、社会に役立つ前提でなければいけないのだろうか。大人は子どもたちに対して「個人が自立した社会人として生きていくための術を身につけることが、結果として社会の役に立つ」という方向性で高校での教育を語って欲しいと強く願う。「役に立たない人間は生存価値がない」と子どもたちが考えてしまわないように、くれぐれも気をつけて欲しい。</p>	<p>貴重な意見として参考にさせていただきます。今後も生徒の成長を支える指導の充実を推進してまいります。</p>
<p>この間の県立高校改革推進プランについて、どこの自治体でも実施しているPDCA【Plan（計画）、Do（実行）、Check（測定・評価）、Action（対策・改善）】の仮説・検証型プロセスを循環させ、マネジメントの品質を高めようという姿勢が視えない。</p>	<p>いただいた御意見については、新プランを推進する際の参考とさせていただきます。</p>
<p>都道府県の枠を越えて、地域の学校に入学し、充実した高校生活をおくる「地域みらい留学」制度を採用しないのは何故か。</p>	<p>いただいた御意見も参考にしながら、新プランを推進してまいります。</p>
<p>島根県の離島にある県立隠岐島前高校で2008年に始まった「隠岐島前教育魅力化プロジェクト」の教訓が全国各地に拡散したが、千葉県で取り入れないのは何故か。</p>	

県立高校改革推進プラン・第1次実施プログラム（案）に関する意見募集結果  
について

千葉県教育庁企画管理部教育政策課

- 1 意見募集期間  
令和4年7月21日（木）から令和4年8月17日（水）まで
- 2 意見提出状況（意見の延べ件数）  
意見提出者数 20名（105件）  
内訳：電子メール（18名）、ファクシミリ（2名）
- 3 提出された意見と県の考え方  
別紙のとおり

## 県立高校改革推進プラン・第1次実施プログラム（案）に関する意見と県の考え方

※提出された御意見について、趣旨を損なわない範囲で要約させていただきました。

御意見の概要	県の考え方
プラン・プログラム全般	
<p>今回、職業系専門学科に関して工業科について触れられませんでした。第2次案以降に触れられることとなると思います。科学・先端技術・工学・数学（・リベラルアーツ）と工業高校の学びは大変近いものがあります。ぜひ、このことを踏まえていただき、総合学科とともに工業科についても、STEM教育（STEAM教育）について触れていただきたいと思います。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の工業高校再編に向けた参考とさせていただきます。</p>
<p>プランの「Ⅱ 魅力ある県立高校の推進」に「多部制定時制高校の設置の検討」がありましたが、第1次実施プログラムでは含まれませんでした。午前部・午後部の二部制は、ニーズがある地域があれば設置を検討しても良いと思います。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の多部制定時制高校再編に向けた参考とさせていただきます。</p>
<p>障害を持った子どもの受け入れについては、どの程度の受け入れを考えているのかを明確に示していただきたいと思います。車イスやストレッチャーなどを使用している生徒は、学校にエレベーターがないことで、志望校が限られてしまわないようにしていただきたいです。また医療的ケアのある生徒に関しては、学校に看護師を常時配置するなどの人員の確保もお願いしたいです。障害があるものは支援学校しか選択肢がない今の現状も変えていただきたいと思います。</p>	<p>御意見につきましては、関係課とも共有し、今後、施策を検討していく上での参考とさせていただきます。</p>
<p>中高一貫校の推進をさらに発展させ、中等教育学校を設置してもよいのかと考える。郡部に設置すれば、生徒が都市部へ流出することを防ぐ手立てにもなり得る。地域密着型の学校ということで、特色ある学校づくりにつながるので、検討の余地はあるのではないかと。</p>	<p>中高一貫教育校の設置につきましては、国の施策や他県の状況を注視しつつ、県内の地域の状況も踏まえ、引き続き研究してまいります。</p>
<p>これまでの高校改革の成果と課題をしっかりと検討していただきたい。高校改革が各県立高校に何をもたらしたのか、子ども達には何をもたらしてきたのかを見つめ直す時ではないかと。</p>	<p>いただいた御意見を参考に、県立高校の更なる魅力化・特色化に向けた取組を推進してまいります。</p>
<p>前プランの「改革の方向性」は現プランに匹敵するすばらしい内容でしたが、高校再編以外の各項目の達成状況・評価が公表されていません。現プランの策定懇談会の議事録にも他県プランとの比較分析とともに、前プランの「改革の方向性」の各項目の達成度・評価・議論がなく、説明願います。</p> <p>プラン「改革の方向性」8項目のうち、プログラム案に記載のない「学習意欲を喚起する学びへの変換、探求的な学びの推進、キャリア教育と職業教育の充実、効果的な学校運営の推進、教育環境の整備、地域等との連携・協働」について、具体的施策体系と各事業実現目標年度等を明記し、かつ主に外部委員会で構成する評価委員会を設置し、PDCAサイクルを確実に回すべきです。</p>	<p>前プランの評価につきましては、再編の実施年度から3年が経過し、初めての卒業生が輩出される年に合わせて実施しています。いただいた御意見については、今後の高校改革の参考とさせていただきます。</p>

<p>中央教育審議会答申のサブタイトル「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」のためには、プランの重点項目「全ての高校の魅力化と学びの改革、キャリア教育と職業教育の充実、学校間連携、戦略的な広報」も重要です。内容は「改革の方向性」の一部ですが、県民にわかりやすくするため、こちらも具体的施策体系と各事業実現目標年度等を明記すべきです。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の高校改革に向けた参考とさせていただきます。</p>
<p>普通科の魅力づくり、特色づくりは、本県だけに限らず、全国的な課題であり、「教員基礎コース」「保育基礎コース」「医療系コース」「福祉コース」といった多様なコースの設置は、社会のニーズにも対応していて、課題解決のための有効な手立てとして高く評価できる。</p>	<p>今後も本県の生徒にとって、魅力ある県立高校となるよう努めてまいります。</p>
<p>「教員基礎コース」「保育基礎コース」「医療系コース」「福祉コース」のような様々なコースの設置は、社会のニーズに応えるとともに、普通科高校の特色づくりを進める上で効果的な取組だと思えます。今後のプログラムでも様々なコースの設置を期待しています。</p>	
<p>教員・保育・医療・介護、あるいは先端IT人材など、本県において喫緊の課題である人材の育成について、県教委としての方向性がしっかり示された、よいプログラムであると考えます。こうした施策を着実に実施し、本県の県立高校で学んだ生徒たちが、「千葉県で学んで本当に良かった」と心から思えるような学校づくりを進めていただくことを期待しております。</p>	
<p>全体的に県立高校改革推進プランに沿った魅力ある取組だと思えます。これらの魅力づくりを着実に実行するためには、設備や教員などの人的支援も必要になります。教育委員会は、第1次実施プログラムを力強く推進するために現場の声に寄り添った対応をお願いしたい。</p>	<p>いただいた御意見については、関係課と共有し、今後の高校改革に向けた参考とさせていただきます。</p>
<p>専門的な学びができることに期待感を持っている。教員の採用計画についても専門性を持った教職員の採用が必要だと思えます。自動車科（工業）、福祉、水産などは、教員免許以外の資格が必要な場合もある。教員の養成や採用、採用後の資格取得などの育成（研修）等の体制について、計画的にお願いしたい。</p>	
<p>工業技術者、介護（福祉）、保育等の人材確保が社会的に求められていることが示されている。生徒募集に関して受検しやすさ（検定料の支援）、入学後の学用品購入に係る費用（支援）など普通高校より費用がかかることがある。社会的に人材が必要とされている分野の具体的対応についてどのような計画があるのか。</p>	<p>高校改革の推進にあたっては、既設校の施設・設備の有効活用を図りながら実施したいと考えています。厳しい財政状況ではありますが、必要な予算の確保に努めるとともに、効果的・効率的な施設運用等の工夫により、魅力ある県立高等学校づくりを進めてまいります。</p>
<p>各専門学科、コースには、実験・実習室がある。一人一台端末を活用する中で、実験・実習室等でのWi-Fi環境が整備されていない。専門的学びに生かせない状況の解消が必要と思う。</p> <p>冷暖房に関して、実験・実習室の設置が必要。授業は、安全面や授業の特性から夏季の暑い日でも長袖で作業したり、窓を開けられない場合などもある。普通高校とは異なり特別教室が多い。これらの対応についてどのような計画があるのか。</p>	<p>いただいた御意見については、関係課と共有し、今後の高校改革の参考とさせていただきます。</p>

<p>2ページ以降、各コース設置等の【再編の内容】【教育内容等】の記述を、1ページ「第1次実施プログラム(案)」第3段落における「学校教育に対するニーズの多様化」という視点を反映した記述にすることが望ましいと思います。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>第1次実施プログラム(案)の「I魅力ある県立高校づくりの推進」のすべての再編項目・対象高校の説明文中に様々な外部機関との「連携」が謳われています。中心となる「コーディネーター」的な職員の配置が必要です。それ故に、教職員増について言及する必要があります。</p>	<p>いただいた御意見については、関係課と共有し、今後の高校改革に向けた参考とさせていただきます。</p>
<p>第3段落の「経済的・社会的に困難を抱えている子供たちの増加等を背景とした学校教育に対するニーズの多様化」を例示するのはよいが、この課題に対する取組みが「第1次実施プログラム(案)」の中に見当たらないのが残念である。記述を残すなら、「第2次実施プログラム案に向けた課題」として、第1次プログラム案に掲載できなかった他の課題とともにまとめて末尾に記載するのがよい。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>「○学区別の中学校卒業生数の推移」のあとに「予測」または「推定」を加筆すべきです。また、予測または推定をした時期も明示するとともに、第1次実施プログラムを策定する際は最新のデータを反映したものに修正してください。</p>	<p>「○学区別中学校卒業生数の推移の見込み」とさせていただきます。</p>
<p>第1次実施プログラム(案) p1の6～9行目について、「経済的・社会的に困難を抱えている子どもたちの増加」とありますが、特に、高校生の生活実態(いわゆる「子どもの貧困」やヤングケアラー等の問題)について、県教委としてどのように把握されていますか。「県立高校改革推進プラン」の本文のほうにはあまり具体的な記述・資料が掲載されていませんでしたが、今回の「第1次実施プログラム案」には、どこに反映されているのでしょうか。</p>	<p>「第1次実施プログラム」において、4 社会のニーズに対応した教育として、地域連携アクティブスクールを行徳高校と市原高校に設置し、また、通信制協力校の指定を銚子商業高校とするなど、中学校時代に様々な事情で力を発揮できなかった生徒が高校でやり直せる体制を拡充しました。</p>
<p>第1次実施プログラム(案) p1の6～9行目について、「学校教育に対するニーズの多様化」と挙げていますが、今回の「第1次実施プログラム案」には、どこに反映されているのでしょうか。</p> <p>「県立高校改革推進プラン」p4には、「県立高等学校の課題 ア生徒の多様なニーズへの対応」として「経済的、社会的に様々な困難を抱えた生徒」とともに、「外国人の増加等を背景に、日本語指導が必要な生徒」がふれられ、「このような状況を踏まえ、県立高等学校においては、生徒が自らの興味・関心や進路希望等に応じた多様な科目選択が可能となる仕組みを充実させるとともに、生徒一人一人の多様なニーズに応じた教育活動を展開することを可能にする体制を整える必要があります。」と述べられています。</p> <p>これこそが今回の「県立高校改革」の重要なポイントと考えます。多少長くなっても、このp1の中でふれるべきと考えますが、いかがでしょうか。</p>	<p>御意見を踏まえ、1ページの前書きに「県立高校改革推進プラン」4ページの内容の一部を追記しました。</p>

<p>p 1に「早期に実施すべき内容について検討を進めて」きた、とありますが、今回の「第1次実施プログラム案」にどう反映されているのでしょうか。コースの設置についてはいくつか提案されていますが、「人材」育成的なものが目立ち、肝心の本県の高校教育の内容については読み取れません。せっかく「県立高校改革推進プラン」で高校生を取り巻く状況、地域の課題、多様な学びのニーズにこたえる教育内容は、という問題提起がなされたのに、途中経過でも結構ですので、検討課題、検討の状況について p 1以降でふれてはいただけないでしょうか。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>「PDCA」で「全ての改革を行なうこと」について、改革案が、どのように現場に具体化され、どのような学校づくりが行われ、どのような生徒が巣立っていったのか、そして中学生が、どれくらい受験したか、それらについて、事実を可視化することで、地域が学校づくりに参画できるようにすべきである。</p> <p>今回の「県立高校改革推進プラン・第1次実施プログラム(案)」についても、県立高校の全ての教育について、どのようにして「PDCA」が使われたか、事実をもって明らかにすべきである。</p> <p>今後10年間において、どのようにして、何回この「PDCA」を使って、より良い千葉の教育を創造していくのか、明らかにすべきである。</p> <p>そして、この「PDCA」に基づいて、県民の討論を巻き起こしていくべきである。これが学校づくりの基本中の基本と言わなければならない。生徒が、地域が、現場が、一緒になってどのような学校と地域を創造するか、という点からも、このことを県民に明らかにすべきである。</p> <p>このことを具体化するために、パブリックコメント提出者と策定懇談会の委員との懇談会の開催を強く要請するものである。</p>	
<p>天羽高校では現3年生が初の「工業基礎コース」学年で、コース選択時も希望が多く卒業後の進路に工場等就職を希望する生徒も非常に多い。今後も多くの選択希望が見込まれるが、最大の課題が県予算の都合で工業の授業施設整備が制限されてしまい、人数制限(学年15人まで)していることである。工業の授業を学びたいと入学しても、工場系に就職したいと希望しても、成績等を理由に別のコースにまわり工業の授業が受けられない。「社会や地域・生徒のニーズ」という観点から考えても、天羽高校には工業基礎コースの充実が求められていることは間違いない。工業基礎コースの設置は成功と考えている。さらに発展させるため、是非とも施設整備の予算や教職員配置など継続して県の支援をお願いしたい。少なくともなるべく早く1学級(40人)規模が授業を受けられるようにしていただきたい。</p>	<p>いただいた御意見については参考とさせていただきます。今後も生徒のニーズに応えた教育環境の整備に努めてまいります。</p>

御意見の概要	県の考え方
普通科及び普通系専門学科・コース	
<p>高校段階から教員や保育士に関する様々な体験をすることは、大学進学後のモチベーションに直結するものと考えます。今後、千葉県のどの地域に住んでいても教員基礎コースや保育基礎コースで学ぶことができるよう、設置校の更なる拡充に期待します。</p>	<p>今後もプラン・プログラムに基づき、更なる拡充について検討してまいります。</p>
<p>教員基礎コース、保育基礎コース、医療コースの設置について 高校がスクールポリシーを策定し、より一層特色を打ち出すことが求められているなか、特色あるコースの設置は有効である。コース設置は夢や意欲、職業意識を育む上で有用であり担い手育成の面からも必要性が高いため、学校の取組を教育委員会が継続的に支えていく仕組みを整えてほしい。</p>	<p>大学や地域との連携等、学校の取組を支援してまいります。</p>
<p>教員基礎コースは、各地域への設置のバランスから考えると今回の3校設置は必要と思います。専門的な学びを通して教員になるための基礎を学び職業意識を育むことは、教員養成系大学等への進学に向けた準備として有効と思います。</p>	<p>今後もプラン・プログラムに基づき、取組を推進してまいります。</p>
<p>千葉県の普通科では、これまでも様々なコースを設置して普通科の特色づくりを他県に先駆けて進めてきた政策を高く評価している。その中で、人材確保が必要といわれる教員、保育といったコースは、需給状況を見据えて、今後も積極的に進めることを要望する。</p>	<p>今後もプラン・プログラムに基づき、更なる拡充について検討してまいります。</p>
<p>安房高校の教員基礎コースの生徒が、本校に体験にきます。高校生にとっては、教育現場を知る良い機会になると思います。また、中学生にとっては、高校生と触れ合うことで、「自分もこんな高校生になりたい。」「自分も安房高校に入学して、教育基礎コースで学びたい。」といった目標を持てる良い機会になります。本コースの設置は、積極的に進めて欲しいです。</p>	
<p>教員基礎コースの【教育内容等】の最後（5番目）の「教員基礎コースで身に付けた資質・能力を生かし、教員養成系大学への進学を目指します。」は踏み込み過ぎで削除すべき。というのも、他の4項目は我孫子と君津に教員基礎コースを設置するとき（県立学校改革推進プラン・第3次実施プログラム）の説明にもあった内容であり、その際の県民説明会でも「決して、教員になることを強制するものではなく、興味・関心をもってもらうことが大事」と回答していたのに対し、今回、新たに5番目の内容が加わると「教員基礎コース」の内容が変質させられてしまうからです。 教員免許状は何も教員養成系大学だけではなく、一般の大学でも教職課程を履修して必要な単位を修得すれば授与されるものなので、教員養成系大学だけを抜き出して記述するのも戦前の師範学校を想起させ、時代錯誤かと。他の保育基礎コースや医療系コースでも保育系、医療系大学や専門学校への進学を目指す等の記述がなく、均衡がとれません。</p>	<p>御意見を踏まえ、「教員基礎コースで身に付けた資質・能力を生かし、教員養成系大学等に進学し、教職への関心を深めることにより、大学進学後に教員免許を取得することを目指します。」に修正しました。</p>

<p>教員基礎コース設置案として三校が挙げられていますが、なぜこれらの高校なのでしょう。説明会では、教職に就く卒業生が多い、という理由をあげていましたが、それはデータがあるのでしょうか。また、結果として教職に就くことと高校生のうちから「教員を目指す」こととは本質的に異なるし、混同してはならないと考えますが、いかがでしょうか。</p>	<p>卒業生の教員への就業割合の他、すでに学校独自で行っている取組等を踏まえ、検討を進めてまいりました。</p> <p>教員に興味・関心を持つ高校生が、夢を実現するために魅力的な取組を推進してまいります。</p>
<p>教員基礎コース設置案で挙げられた高校では、職員から希望があがっていたのでしょうか。生徒・保護者はどう思っているのでしょうか。少なくとも国府台高校については、生徒の「ニーズ」ではないと思われます。そもそも「教員養成課程」等への進学希望者は多くないと思われませんが。</p>	
<p>そもそも高校生の時代に特定の職業に向けた「コース」を設定すべきではない。特に「教員」については「コース」設定すべきではない。</p> <p>理由は以下のとおり。高校生のうちから教員を目指すということ自体はその生徒の自由であるし、もちろん否定されるものではないが、こと児童生徒を相手にする仕事においては有害に働くこともある。生徒個人が、漠然とではあれ教員という職・在り方を描きながら高校で学ぶことはあるとしても、「教員養成コース」という枠の中で学ぶことは、かなりの生徒が躊躇するだろうし、忌避する生徒も多いと思われる。問題点は次の3点。</p> <p>①「教員基礎コース」という存在は、高校での学びを一定の「鋳型」にはめ込むことになり、多様な学び、多様な生き方（職業を考えることも含め）にふれる機会、自分を見つめなおす作業等を自ら閉ざすことになる。このことは、多様な生徒への指導・支援が求められる教員の姿から離れることになってしまう。</p> <p>②「教員基礎コース」の中で、小中学生とふれあったり、学びに関わるという実習の時間が組まれる場合があるが、短時間での限られた「経験」・「体験」は一面的な「見方」・「自己評価」につながる恐れもあり、危険である。実習が生きるとすれば、失敗・悩みの中から課題を見つけ、学びにつなげることにあるが、そのような時間的保証はないし、そんな時間があれば、ふだんの学習、高校生活での経験のほうが、はるかに（教員という職に限らず）生きるであろう。</p> <p>③将来、結果として教員という職に就くことがあってもいい。実際、紆余曲折の末に、教員という職にたどりつく場合も少なくない。むしろそのようなプロセスがある分だけ、生徒にとって「魅力的な」または「力になる」教員となる可能性もある。教員不足だから「教員養成」を、これは企業経営としての大学・短大等にとってはうまい（儲かる）話だが、これに公教育が乗っかることは自殺行為である。</p>	
<p>プログラム案の「教員基礎コース設置」に賛成しますが、戦略的広報として「働き方改革」を追加し、業務削減・業務分担改善年次計画、専任のスクールカウンセラーの全校配置整備年次計画、スクールサポーター・スクールコーディネーター等拡充年次計画、学校運営改善年次計画など必要なプログラムに追記すべきです。</p>	<p>いただいた御意見については、担当課と共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>

<p>千葉県保健医療計画によると本県の医師数は、人口10万人当たり189.9と全国平均240.1を大きく下回っており、全国で多い順に第45位である。また、看護師は673.5で全国46位（全国平均905.5）と低い状況にある。今後、高齢化の一層の進展により、医師や看護職員の不足感はますます高まると計画は予想している。この状況で医療人材の育成は本県にとって喫緊の課題であり、若いうちから医療マインドを育成できる学校を増やしてほしい。</p>	<p>今後も医療人材の育成に向け、コースの拡充について検討してまいります。</p>
<p>1 普通科及び普通系専門学科・コース「(4)グローバルスクールの設置」、【再編の内容】中の「高校にグローバルスクールを設置します」という記述の再考が必要と思います。また、【教育内容等】中の「～を研究します」や「学校設定科目の開発、研究、普及」との表現についても、それぞれ変更が必要と思います。</p> <p>【理由】 この部分のみ、他の、A高校にBコースを設置する、という表現とは異なり、内容・意図が分かりにくいため。また高校が主体である場合、現行の「開発」「研究」などの用語はそぐわない。</p>	<p>御指摘の内容につきましては、前改革推進プランにおける表記に合わせたものとさせていただいております。</p>
<p>グローバルスクールは反対。再考を求めます。</p> <p>【理由】</p> <p>①グローバルスクールはもう古い概念である。国際理解教育、多文化共生教育という幅広い教育活動を、すべての高校で実施すべきです。</p> <p>②ESD教育は、「国際教養科」に限らず、すべての高校でとりくむべき課題です。「研究」すべきは、すべての高校ですし、すでに多くの学校で実践が取り組まれています。</p> <p>③多くの外国につながる生徒の学びのサポート、生き生きと学べる教育内容をこそしっかり検討し、実施に移してほしい。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p style="text-align: center;"><b>御意見の概要</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>県の考え方</b></p>
<p style="text-align: center;"><b>職業系専門学科・コース</b></p>	
<p>農業経営者育成に関するコース、起業家育成に関するコース、観光に関するコースについて、職業系専門学科が担う意味を考えると、より高度な内容を目指すコースの設置は有効である。これまでも、農業経営者や起業家の育成に関する取組はあったと思うが、コース設置の前と後では何がどう変わるのか、新しいコースが何を指すのか、をはっきりさせることで、中学生や保護者にとって、よりインパクトのある内容になると思う。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>福祉コースを設置する学校間の連携が円滑に進み実効性のあるものとなるよう県教育委員会の支援をお願いしたい。</p>	<p>福祉教育拠点校を中心に、福祉系高校の連携がいつそう推進されるよう、取組を支援してまいります。</p>
<p>工業系コンソーシアムなどの先例を参考に、ぜひ福祉の連携コンソーシアムの取組を進めていただくことを期待します。</p>	<p>プラン・プログラムに基づいて取組を推進してまいります。</p>
<p>福祉人材の育成は重要な課題であり、高校教育においても福祉人材の育成に一翼を担ってほしい。</p>	<p>今後も福祉人材の育成に向けた取組を推進してまいります。</p>

<p>松戸向陽高校の福祉教養科の内容については、もっと広報されてよいと思います。専門学科として充実させるために、教員増、予算増、広報を含めた県のバックアップを期待します。</p> <p>福祉コースは、「コース」ではなく、ひとつの「系列」として、人的・予算的条件づくりのうえで実施すべきと考えます。</p> <p>今回の案の船橋豊富高校は、総合学科として「系列」を用意し、その一つとして福祉の学びを展開してはどうかでしょう。他校の「福祉コース」についても総合学科としての充実を再検討願いたいと思います。</p>	<p>いただいた御意見については、関係課と共有し、福祉教育の更なる充実に向けて、専門学科での取組を支援してまいります。また、コースの総合学科としての位置付けについては、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>小中学校におけるプログラミング教育が始まり、高等学校においても、その発展的取組が求められるところ、先端 IT コースの設置は、まさに時代が求める学びを提供することになるものと思います。今後、全県的なバランスも考慮しながら、こうしたコースを拡充いただくことを期待します。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とし、魅力ある県立高校づくりを進めてまいります。</p>
<p>情報教育の充実については、情報科が中心となることと思いますが、広く DX 人材の育成の観点で、商業科において触れていただきたいと考えます。DX 推進にはエンジニア・プログラマは重要ですが、ビジネスの現場で DX を推進する人材の育成に関しては、高校段階において商業科でその素養を醸成することが適しているのではないのでしょうか。</p>	
<p><b>御意見の概要</b></p>	<p><b>県の考え方</b></p>
<p><b>総合学科</b></p>	
<p>郡部の伝統校である匝瑳は、近年、理数科の生徒募集が振るわず、特に令和4年度入学選抜ではその影響が普通科の募集にも及び、極めて厳しい状況となった。高校受験段階で中学生が専門学科を選択することは、3年間の学びの見通しを持つことが難しいこともあってか、どうしても敬遠されがちなので、既存の学びを残しつつ、入学時にそこまでの選択を迫らなくて済む総合学科への転換は、起死回生の一手となり得ると考える。同様の状況に苦しむ郡部の伝統校は他にもあり、そうした学校の総合学科への転換もできるだけ早く実施すべきである。</p>	<p>今後も、プラン・プログラムに基づき、魅力ある県立高校づくりを進めてまいります。</p>
<p>今の中学生は普通科志向と言われ、高校の専門的な学びについて中学時点では決められない生徒が多くいる。総合学科は、入学後に自分を見つめる1年間の学びを経て、進路に対応した学びを選択できる利点がある。このように入学後に学びを選べる仕組みをもつ学校を、キャリア意識を高めるためにも増やしてほしい。</p> <p>総合学科は、入学後に生徒の興味関心に応じた授業を選択できる利点がある。生徒数が減少し、選択科目が少ない郡部の学校では、総合学科は、生徒にとって魅力ある学科である。</p>	
<p>匝瑳高校への総合学科設置は賛成です。理数科から理数系列へと国際に関するコースから国際系列への再構成の他にも、地域のニーズに応じた特色のある幾つかの系列の構成に期待しています。</p>	

<p>高校進学段階では、職業系に特化した専門学科への進学に踏み切れない生徒も見られるところ、幅広い学びができる総合学科の存在は大変重要であると考えます。今後は、都市部においても職業系も含めたさまざまな学びを選択できる総合学科の設置について検討いただくよう期待します。</p>	<p>今後も、プラン・プログラムに基づき、魅力ある県立高校づくりを進めてまいります。</p>
<p>今回の案の船橋豊富高校は、総合学科として「系列」を用意し、その一つとして福祉の学びを展開してはいかがでしょうか。他校の「福祉コース」についても総合学科としての充実を再検討願いたいと思います。また、この間小金高校、幕張総合高校に設置した「進学を重視した総合学科」は総合学科ではありません。本来の、高卒後の就職・進学に幅広く考えられる「総合学科」を作るべきです。現行の「進学を重視した総合学科」は多様な選択講座を活かすという点からすれば、単位制高校としてリメイクしたらいかがでしょうか。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>学科・コースという「枠組み」を増やすのではなく、自由選択講座を展開するような普通科を検討すべきです。</p>	
<p>総合学科と単位制を推進していく方向性に賛成する。そして、理想を言えば、大学のように年次を超えて履修できる科目を設定できるようになると良いと考える。現行でもそのようなことは可能ではあるが、現実としては、時間割作成の問題や、空きコマを過ごす生徒の場所の確保など、様々な問題があり導入が難しい。今後、職員の配置数を工夫するなどして、生徒が年次を超えて学び合える学校づくりが進むとよい。</p>	
<p style="text-align: center;"><b>御意見の概要</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>県の考え方</b></p>
<p style="text-align: center;"><b>社会のニーズに対応した教育</b></p>	
<p>地域連携アクティブスクールは、学びのセーフティネットとしての重要な役割を果たしており、設置校を増やすことは高く評価する。気になるのは、既存の4校と今回の2校で所在する地域に偏りがあることである。「県立高校改革推進プラン」によると、設置予定は残り2校ということで、全ての学区に設置することができないことになってしまう。</p>	<p>プランでは地域バランスや生徒や保護者等のニーズを踏まえ、既設の4校に加え、新たに4校程度設置することとしています。今後の設置については、全県的なバランスを考慮しながら拡充を図ってまいります。</p>
<p>中学校卒業者のほぼ全員が高等学校に進学する現状において、高等学校に求められるニーズも多様化する中、地域連携アクティブスクールのように、学び直しを始めとするきめ細かな学習指導や、スクールソーシャルワーカー等によるきめ細かな教育相談体制を有する学校への期待は非常に大きいと考えます。今後、県内のどの地域に住んでいても地域連携アクティブスクールで学ぶことができるよう、全県的なバランスも考慮しながら、更なる拡充を期待します。</p>	

<p>中学校で能力を十分に発揮できなくても高校では頑張ったり直したいという生徒は、不登校の生徒数から見て、大変多くいる。このアクティブスクールのように学び直しや地域との協力でコミュニケーション能力を身に付け、自立した社会人を育成する学校はまだまだ必要である。不登校生徒数などの状況を分析して今後も設置を検討してほしい。</p>	<p>プランでは地域バランスや生徒や保護者等のニーズを踏まえ、既設の4校に加え、新たに4校程度設置することとしています。今後の設置については、全県的なバランスを考慮しながら拡充を図ってまいります。</p>
<p>学び直しや実践的なキャリア教育を通して自立した社会人を育てる地域連携アクティブスクールに対する期待は大きいことから、新たに設置することは良いと思う。将来の納税者を育てるためには、丁寧な指導が不可欠であり、そのためにはマンパワーも重要である。キャリア教育のコーディネーターやスクールソーシャルワーカーを継続的に配置すれば、効果も大きいことから、是非とも継続的な配置をお願いしたい。</p>	<p>いただいた御意見も踏まえ、地域連携アクティブスクールの充実に努めてまいります。</p>
<p>今回、「地域」が強調されてきたが、単なる「学区」としての「地域」という意味か、「地域」とは何か、定義が明らかにされていない。何故か。</p> <p>千葉県には54の自治体があるが、これも「地域」である。小学校区も、「中学区」も地域である。</p> <p>①「地域連携アクティブスクール」を「行徳高校・市原高校」に設置するとしているが、これらの高校の場合の「地域」とは何か、明らかにされていない。何故か。</p> <p>②或いは、全ての県立高校が設置されている「地域」とは何か、明らかにされていない。何故か。</p> <p>③したがって「基本的コンセプト」に明記されている「地域」の中で、普通科及び普通系専門学科・コース、全県一区の職業系専門学科・コース、総合学科に対して、どのように「地域」を捉え、「地域の特性」を具体化していくのか、生徒が主人公の学校づくりを起点にして、それぞれの学校づくりと地域づくり、明確にすべきである。</p> <p>④その際に、「地域」が、自らの地域にねざした学校づくりの提案を保障すべきである。そのうえに立って、千葉県教育委員会の「計画」が策定されるべきである。順序が逆である。</p>	<p>いただいた御意見を参考については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>今後は、県内のどの地域に住んでいても、県立高校唯一の通信制高校である千葉大宮高校で学びやすくなるよう、館山総合、銚子商業の2校に加え、県内のすべての定時制高校を通信制協力校にするなど、更なる拡充を期待します。</p>	<p>今後も、プランに基づき、更なる拡充について検討してまいります。</p>
<p>通信制協力校は、遠距離に住む生徒にとっては、とてもありがたい学校であるので、ニーズを見て今後も増やしてほしい。</p>	
<p>映像配信による受講も可能になるため、千葉大宮高校の教職員が協力校（現行の館山総合高校及び今次プログラム案に挙げられた銚子商業高校）に出張して行う方式に限らず、負担にならない方法を採用することを、併せて確認してください。</p>	<p>オンラインでのスクーリングの実施など、負担軽減に向けた取組を検討してまいります。</p>
<p>開講科目に限りがあること、途中から制度を利用することができないことなど、制約を改善していただくと、さらにより良い制度になると思います。</p>	<p>御意見を参考にしながら、制度の利便性がより向上するよう検討してまいります。</p>

御意見の概要	県の考え方
<b>適正規模・適正配置</b>	
<p>下総高等学校では「園芸科」「自動車科」「情報処理科」の地元産業に密接な三科を有しており、地域社会に必要とされる特色有る人材育成を行っている大変貴重な存在である。</p> <p>下総高等学校のような地域に根ざして、有る面人材育成のインフラともいえる教育を行うことは公立学校の使命ではないか。これらの点に考慮して県の予算で支えていくことは、県民・国民の賛同を得ることは間違いないと確信している。</p>	<p>専門分野の人材育成は重要と考えております。いただいた御意見も参考に、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。</p>
<p>都市部でも定員を満たすことができない高校が複数あることも踏まえて、是非都市部の高校の統合を進めてほしい。</p>	<p>地域の状況等を十分に考慮しつつ、統合により魅力ある高校となるよう、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。</p>
<p>是非都市部での統合を断行し、千葉県のみ県立高校を守ってください。私立高校への進学者の増加を考えると絶対に必要だと思えます。</p>	
<p>地域連携協働校の指定について、「地元進学率が高い」という判断については、ぜひ柔軟に考えていただきたく、要望します</p> <p>県立高校は中学生にとって公教育の最後の砦です。郡部における中学生の選択肢の幅を狭めることのないよう、要望します。</p>	<p>地域連携協働校の指定については、学校の様子や地域の状況等を考慮しつつ、検討します。また、郡部においては、地域との連携や協力を得ながら、将来、地域の担い手となる人材を育成できるよう、高校配置の在り方について検討します。</p>
<p>部活動や学校行事など、学校における様々な活動をより活気のある充実したものにするためには、一定以上の生徒数は必要であると考えます。今後、県立高校で学ぶ生徒が、より充実した高校生活を送ることができるよう、生徒数の減少に応じた適正な学校配置について検討をお願いします。</p>	<p>活力ある教育活動が展開できるよう、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。</p>
<p>統合を進めるにあたっては、学校数が減っても、「結果的に子ども達の教育環境は良くなる」と説明してもらえれば理解が得られると思う。</p> <p>また、これまで統合後特別支援学校として活用する事例が多かったように思うが、それを含め、他の自治体の活用事例も幅広くリサーチしながら、自治体、教育委員会、経済界、地域住民の考えやアイデアをくみ取って計画を進めていただきたい。</p>	<p>統合により、より魅力ある高校となるよう改善を図ってまいります。今後も様々な御意見をいただきながら、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。</p>
<p>郡部については『地域社会衰退の懸念（地域の活性化）』の視点を打ち出し『地域連携協働校』として高校を残す道を切り開いた点は高く評価しますが、「統合により通学が著しく困難となる地域」という条件は削除していただきたい。</p>	<p>地域連携協働校の指定は、小規模校であっても学校を残すことで、通学への負担を軽減し、学びの場を保障することにあります。いただいた御意見も参考に、より充実した取組となるよう努めてまいります。</p>
<p>きめ細やかな教育活動や特色ある教育活動を可能とする少人数学級や小規模校の実現こそ有効であると考えます。郡部だけでなく都市部においても、当該生徒や地域が望む場合は存続を認める道を検討して欲しいです。</p>	<p>都市部においては、地域の実情等を考慮しつつ、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。</p>
<p>生徒減を公立だけで調整するのは不公平でおかしい。第9学区は私立高校の定員が多すぎなのは明白で、全県的に突出して私立高進学率が高いのは大問題である。「地域の活性化」の役割を持つ公立高校存続のため、『公私比率の再検討・厳守』が不可欠だと考える。</p>	<p>公私協調のもと、引き続き十分な協議を進めてまいります。</p>

<p>部活動や学校行事に取り組みたいという生徒のニーズに応えるためにも、また、少しでも多い職員の配置の基で特色ある教育を展開するためにも統合は必要と思います。</p>	<p>活力ある教育活動を展開できるよう、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。</p>
<p>厳しい社会で自分を失わずに主体的かつ協働して生きていく力を育てるためには、多くの生徒の中で切磋琢磨できる場が必要である。この方向を最上位に位置付けて適正配置・適正規模を力強く進めてほしい。</p> <p>適正配置について、地域の状況や通学範囲等を配慮しながら生徒数に応じた配置を進めてほしい。未充足の学校で同じタイプで近接する学校は、積極的に規模の適正化を進めてほしい。</p>	<p>多くの友人や教職員との触れ合いや、切磋琢磨の機会を確保するため、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。</p>
<p>郡部では、交通機関を整備し、広域の通学の利便性を図る等の学校間の距離が開きつつある実状を解消するなど生徒数減少に対する策を検討しないのか。統合等については、地理的要因で考えるのではなく、実際の学習環境を考慮すべきと考える。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>適正規模については、学級数を減らすことの前に、1クラスの生徒数を30名～35名にしていくことを検討する必要があるかもしれない。</p> <p>適正配置について、郡部については、スクールバスの導入とセットで話を進めていく必要があるのではないかと。また都市部については、郡部以上に統合を推し進めていく必要を感じる。</p>	<p>県立高校の学級編成については、「県立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」を踏まえ、一学級あたり40人を標準としております。いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>Ⅱ 県立高校の適正規模・適正配置【今後の対応】第4段落以降に、【これまでの経緯】にある「地域協議会」という文言をあらためて記載する方が良いと思います。</p>	<p>御意見を踏まえ、「なお、統合に当たっては、生徒や保護者のニーズを踏まえるとともに、学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会などにおいて、地域の方々から地域における学校の在り方について意見を伺い、検討を進めていきます。」に修正しました。</p>
<p>第4段落の「統合に当たっては、生徒や保護者のニーズを踏まえるとともに、学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者など、地域の多くの方々にも、地域における学校の在り方について主体的に考えていただきながら、検討を進めていきます。」はプラン34ページの「学校の適正な配置に当たっては、地域における学校の在り方などについて、生徒や保護者のニーズを踏まえるとともに、学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会などにおいても意見を伺いながら、検討を進めます。」と重なる部分もあるが、微妙に表現が異なる部分もある。違いがあるのなら、それを明示するとともに、その違いを説明すべきであり、ないなら、プランの内容をさらに細かく記述し、発展させたものと記載すべき。</p>	
<p>「地域連携協働校」という新たな概念を評価しますが、対象範囲については、郡部にとらわれない発想が必要と思います。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>「地域連携協働校」について、【基本的な考え方】中の郡部の○3つ目にある「出張授業や遠隔授業」の在り方は明確ではなく、削除も含めて再検討をしてください。</p>	<p>「地域連携協働校」における【基本的な考え方】は、生徒にとって活力ある高校とするための重要な方向性として位置付けております。課題を踏まえ、十分に検討してまいります。</p>
<p>他県で実施されている、専門学科や人口急減地域での40人未満の学級編成を参考にしつつ、本県も少人数学級に踏み出す必要があると思います。</p>	<p>県立高校における40人未満の学級編成については、国の動向を注視してまいります。</p>

<p>40 人学級ではなく 35 人学級ではないかと思われま す。一人一人に目が届き、丁寧に生徒の声を聞くこと のできる環境がなによりではないでしょうか。</p>	<p>県立高校における 40 人未満の学級編成につい ては、国の動向を注視してまいります。</p>
<p>千葉県として高校の少人数学級の実施に向けた改善 の姿勢を示す時期に来ているはずですが。県教育委員会 としては国の情勢を注視するものと思いますが、高校 35 人学級が実現した場合も想定し、少なくとも 7 年後 までは高校統廃合には慎重であるべきです。</p>	
<p>都市部の適正規模について、「6 以上」に固執せず、 柔軟に設定するべきです。</p>	<p>活力ある教育活動が展開できるよう、県立高校の適 正規模・適正配置に努めてまいります。</p>
<p>第 8 学区は、県立高校が 4 校あります。普通科、総合 学科（農業）、工業科、商業科、家政科、海洋科とバラ ンスが良く、多様な学びが可能です。一方で、自動車が 交通手段であり、1 校でもなくなってしまうと、通学に 支障が生じる地域も出てきます。郡部の学校の在り方 については、地域と慎重な協議をしていただき、再編を 進めていただければと思います。</p>	<p>郡部において学びをバランス良く配置することは重 要と考えます。今後も、地域との協議を通じて、課題を 共有し、郡部における適切な高校配置の在り方を検討 してまいります。</p>
<p>【今後の対応】「統合にあたっては、生徒の……」と ありますが、具体的にどのように検討していくのか具 体的にしていきたいです。またその検討がどのよう に県民に情報を公開しながら、どのように県民が参 画しながらなされるのかを具体的に記載していただき たいと思います。 従来の委員会の設置、県民説明会、パブリックコメン トをさらに充実したものにしていただきたい。</p>	<p>今後も広く県民の皆さまからの御意見を伺いな がら、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまい ります。</p>
<p>3 学級でも存続できる原則以外の「学校・地域の状況 等」について具体的に例示すべきです。17 ページでは 「生徒募集において著しく困難が生じる場合につい ては、統合も検討します」とも書かれているため、定員割 れが続いている九十九里高校と大原高校について今後 統合されるのではないかと大変心配になります。</p>	<p>郡部における適正規模・適正配置については、「地域 連携協働校」を指定するなど、郡部における新しい高校 の在り方を検討してまいります。</p>
<p>【基本的な考え方】郡部の「統合により通学が著しく 困難となる地域であり、かつ地元からの進学率が高い 高校を地域連携協働校に位置づけます」とありますが、 「かつ地元からの進学率が高い」を削除することが適 切であると思います。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせて いただきます。</p>
<p>入学者選抜制度の一本化によって「生徒募集におい て著しく困難が生じた」と考えられます。入学者選抜制 度に問題はないのか検討すべきであると思います。入 学者選抜制度の改善と適正規模・適性配置の検討を総 合的に行うための、県教育委員会内での組織・体制の整 備を求めます。</p>	<p>いただいた御意見については、関係課とも共有し、今 後の参考とさせていただきます。</p>
<p>早急に「地域協議会」をすべての学区で立ち上げる べきです。今後はすべての学区はもちろん、1 回開催して 終わりではなく、10 年間のプランの進捗状況も確認 するためにも節目ごとに適宜開催すべきです。県民の 共有財産である県立高校の存続にかかわる大事な議論 を密室で行うのではなく、情報公開の時代にあっては 公開で開催することを強く希望します。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせて いただきます。</p>

<p>一部私学に見られる入学定員を大幅に超過する入学者の受け入れは見直すよう県教育委員会並びに学事課で協議する必要があるのではないかと。千葉県においても県民の共有財産である県立高校の統廃合を掲げる前に、私立高校への補助金交付の運用を厳格化することで私立高校の入学定員の管理を適正に行い、公立と私立のバランスを保つことで、「生徒減少地域」の公立高校の募集定員の確保を図るべきです。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>「都市部」を面倒でも第1～第3学区へ、「郡部」を第4～第9学区へ名称変更を検討すべきです。</p>	
<p>「地域連携協働校」について、いつ、どのように、何校程度指定するのか、さらには指定のための基準が明らかにされていないのが不満です。また、全県で公平に指定されることを望みます。</p>	<p>「地域連携協働校」の指定については、通学の状況や地元からの進学状況等を踏まえ、慎重に検討してまいります。</p>
<p>「県外留学」制度について、「県立高校改革推進プラン・第1次実施プログラム(案)」に明記されていないのは何故か。  小規模高校における特色ある学校づくりについて、他県の事例を研究して具体化しないのは何故か。  何故、全国の事例を具体的に資料化して議論しないのか。  地域の特性に合わせた、「子どもの権利条約」を活かした、児童・生徒の目線を重視した「生徒が主役」の高等学校づくりについて、計画の中に明記していないのは何故か。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>「学校・地域の状況等配慮し、統合しない場合もあります」との意見を具体化しないのは何故か。  「統廃合」ではなく、地域の特性に応じた小規模高校づくりを、全国各地の、文科省・自治省・国土交通省の方針にそって、明記すべきであるが、そのことに触れていないのは何故か。</p>	<p>国の動向や地域の状況等を注視しつつ、活力ある教育活動を維持するため慎重に検討してまいります。</p>
<p>「地域連携協働校」に位置づけられる可能性のある高校に対しては、できるだけ早い段階で、実施対象となるのか否かを連絡していただきたい。  学校運営協議会の設置及び設置後の運営については、できるだけ高校側が主導権を握れるようにしていただきたい。  人口増加、産業振興、交通網の拡充等、生活基盤全体の底上げとともに高校の存続も考えないと十分な効果は期待できない。  定員割れが続き存亡の危機にある高校では、少ない教職員と少人数の生徒とが様々な取組に力を注ぎ、見た目以上に疲弊している。県教委には、長期的な展望のもと高い視点に立ち、最善の策を講じていただきたい。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>地域連携協働校の指定条件について、指定そのものを地域に委ねるか、そうでなければ指定条件とその根拠をプログラムに明記すべきです。</p>	
<p>統合検討となる地元進学率の下限とその根拠、その他全ての統合検討基準を追記し、プログラム決定後3年程度は小規模校の入学生徒数の推移と地元市町の学校支援の状況を客観的に評価して、存廃を決定すべきです。</p>	

<p>郡部小規模校は、地域連携協働校の指定を検討する前に、高校の在り方について学校と地元市町が協議する場を設け膝突き合わせて頻繁に情報交換と意見交換を重ねるべきです。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>高校を核とした地域振興の観点からも、地域連携協働校の指定検討や近隣校との統合検討の前に、まず近隣校の教員が小規模校に出向き多様な選択科目を確保し小規模校の学校の魅力を高めることで、入学生徒が増えないかを検討することから始めるべきです。</p>	
<p>プログラムに郡部小規模校の統合基準を明記し、郡部の小規模校の存廃決定のタイムリミットとすべきです。</p>	
<p>小規模校と地元市町が率直に意見交換を重ね、ある程度高校の将来像が絞られてから、県と統合先となる学校の地元市町の間で調整を始めるのが最も円満な手順です。</p>	
<p>地域協議会を設置するのなら、実際の事務局を地元市町に置き、地域協議会の役割と権限、具体的検討項目、方針決定方法について関係者への事務説明を尽くし、委員の人選も協議すべきです。</p>	
<p><b>御意見の概要</b></p>	<p><b>県の考え方</b></p>
<p><b>魅力ある学校づくりの推進について</b></p>	
<p>国を挙げて学校の「働き方改革」に取り組む中、意味のある事業であっても、学校現場の負担増を招くことは必至です。従って、教職員増に踏み込む必要があると思います。ぜひ言及してください。</p>	<p>いただいた御意見については、関係課と共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>次期プログラムにおいては、プラン9ページ「4 改革の方向性（4）」で示された「様々な配慮を必要とする生徒に対する個々に応じたきめ細かな支援を推進」する学校の設置を検討してください。</p> <p>策定されたプランを基にした、実施プログラムの対象か否かを問わず、プランの「基本的コンセプト・改革の方向性」を実現するためには、教職員増と教育予算の確保が欠かせません。そのためにも、貴委員会の尽力を願ってやみません。</p>	
<p>今年度、他の県から「全国募集」についての案内が届きました。要項を見ると、地域ならではの、「特色ある学び」がウリになっています。また、寮や宿泊先も、地域と連携されており、受け入れ態勢が整備されていました。ぜひ、千葉県も「特色ある学び」ができる県立高校が多くありますので、地域の協力を得て、受け入れ態勢を整備していただき、全国募集が展開できないでしょうか。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

<p>「魅力ある県立高校づくりの推進」として、普通科、職業系専門学科ともに多様なコースを設置することによって魅力づくりを図る方針ですが、中学生が高校進学を選択する時点で将来の方向をしっかりと持っているわけではなく、高校で進路を考える生徒が多いことと思います。そのように考えますと必要なのは、特定の高校に特定のコースを設置することではなく、どの高校に進学してもキャリア教育がしっかりさせることではないでしょうか。特に総合的な探求の時間を有意義に活用することで、多様な職業に対する意欲を育成することができるのではないのでしょうか。職業系専門学科についても同様です。高校で専門教科を学ぶ中で2・3年生の中で様々なコースを選択するようなカリキュラムである方が生徒は選択しやすいのではないのでしょうか。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>「経済的・社会的に困難を抱えている子どもたちの増加」については、高校生一人ひとりが高校で安心して学んでいけるように、修学支援策を措置していただきたいと考えます。「国の動向を注視しながら」ではなく、千葉県としての支援策を検討し、実行に移していただきたいと考えます。</p> <p>例1 小中学生と異なり、高校進学に際しての就学支援制度がありません。授業料無償制度や「奨学のための給付金」の制度拡充はもちろん必要ですが、入学時の費用負担は大きいものとなります。県立高校各校により異なるかもしれませんが、入学時に5～8万円必要な状況です。県としての助成制度は実施できないものでしょうか。</p> <p>例2 新型コロナウイルス感染対策の一環で、昼食時の「黙食」等指導の対象となっております。その是非は別として、昼食時にお弁当を用意できない。生徒の負担感を見るに忍びないです。全日制高校で昼食時の給食を検討できないのでしょうか。夜間定時制高校の給食再開も是非お願いしたいです。</p> <p>例3 高校卒業後の進学を諦めざるを得ない生徒の存在、奨学金というローンを課している現実は何とかならないのでしょうか。「地域の振興」、「地域の人材」を掲げるのであれば、県・自治体が何らかの助成（給付型奨学金の大幅な拡充）等予算化できないものでしょうか。</p>	<p>いただいた御意見については、関係課とも共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>日本語を母語としない生徒の高校進学の保障とともに、高校入学後の日本語学習支援が文科省の重点課題としあげられています。県としての人的支援（教員加配、支援スタッフの配置等）はぜひ必要ですが、同時に各高校での支援内容も検討・実施すべきです。多文化共生教育、国際理解教育はどの学校でも実施すべき重要課題です。「実施プラン」の中に「グローバルスクール」があげられていますが、必要なのは「内なる国際化」対応です。外国につながる生徒がどの高校でも学んでいる実態がありながら、支援からは「放置」されている現状があります。それぞれの生徒の文化的バックボーンを尊重しながら、共に楽しく学べる学校、そのためには何が必要か、しっかり検討・実施すべきと考えます。</p>	